

# 如学会NEWS

jogakkai

## 2019 秋

東京都市大学  
建築学科同窓会誌

トピックス・如学会講演会 西澤信二氏 聴講レポート  
「エンタテイメントシティ渋谷の実現に向けて」を語る

宿谷昌則教授最終(再習)講義「建築環境学外論」レポート  
宿谷昌則教授懇親会兼再習ゼミレポート

「夏期特別講義」14人の卒業生が充実した講義

「建築100人展・浅草展」  
出展者・参加企業募集

3泊6日(機中2泊)「パース・シドニーの旅」レポート  
「TCU学生・TAP留学中の2大学を訪ねて」

「進路ガイダンス2019」盛大に開催

「特別養護老人ホーム「花子」内覧会

「女流ファイル」PART.20

定期総会・講演会・懇親会報告

二〇一八年度決算報告・二〇一九年度予算案

## 如学会講演会

於：渋谷エクセルホテル東急  
講演

### 西澤 信二 氏

東急株式会社 渋谷開発事業部

## 「エンタテインメントシティ渋谷の実現に向けて」



6月1日、渋谷エクセルホテル東急（東京・渋谷）で開かれた2019年度定期総会の後、東京急行電鉄で渋谷の開発事業を手掛ける西澤信二氏（59歳）が「エンタテインメントシティSHIBUYAの実現に向けて～渋谷ヒカリエから始まる街ブランディングへの挑戦～」をテーマに講演した。渋谷ヒカリエ（2012年）や渋谷キャスト（2017年）、渋谷ストリーム（2018年）などの開発を担当してきた西澤氏は「駅中心の5街区が完成し、大規模なインフラ整備が終わる」と説明。その上で「広域渋谷圏を舞台とした世界からも注目される新しい街づくりが新たにスタートする」と語った。

東急電鉄は延べ約104キロの鉄道沿線にある98駅を拠点に都市開発事業を展開している。交通、不動産、生活サービスの各事業が有機的・螺旋的につながり、新しい生活価値を創造し沿線価値の向上を目指している。西澤氏は「訪れたい街、働きたい街、住みたい沿線をつくる。快適な都市生活環境を提供し続けることで街全体のブランド価値を高めていく」と強調した。

本年度に始動した新中期経営計画は、サステナブルな▽街づくり▽企業づくり▽人づくりの三つを基本方針に据えた。西澤氏は「ここで終了ではなく、将来への事業の継続を重要な課題として掲げた」と説明。快適な都市生活環境を提供し続けるため、「できるだけ多くのお客様のすてきなシーンを鮮明にイメージすることがから始まる。シーンを連続させることで空間が生まれ、施設や街が誕生する。お客様視点で街づくりを進めている」との方針を示した。

建築家やデザイナーなどとのコラボレーションを通じて、「空間づくりには人間の持つ発想力を大切に、プロジェクトに注がれる人間のエネルギーの総量、人間力を最大限に高めることが最も重要だ。人間力が時代を生き抜く商品価値の高い建築空間を創り出していく」と振り返った。開発に続いて運営にも携わった経験を踏まえ「お客様に快適な時間を提供するこの空気感こそが、開発と運営により生み出されたブランド価値となる」と力を込めた。

商品企画力が必要不可欠と強調した上で、「商

品はマーケティングデータに基づき企画され、デザインというソリューションにより商品（形）になる。商品がお客様に評価されることでブランド価値が高まる。そして運営を通して新たなマーケティングデータが蓄積される」と説明。「開発と運営が一体となってマーケティング、デザイン、ブランディングのサイクルを回すことが重要だ」とした。

西澤氏は東急グループの渋谷開発の歴史を紐解きながら、「エンタテインメントシティSHIBUYA」の実現を目指し、渋谷の街全体のブランディングに挑戦するプロジェクトを紹介した。その初弾となる渋谷ヒカリエのコンセプトは「街をつなぎ、人と人の時間をつなぐ」。渋谷の街づくりは「谷を克服し、文化を発信する」という東急文化会館開業時から60年以上も変わらない東急グループの渋谷の街づくりのコンセプトを基にプロジェクトが進められており、西澤氏は「現在の渋谷の開発もベースはここにある。東急文化会館のDNAを継承して進化している」と説いた。

——— レポート●山口裕照（H10卒）  
日刊建設工業新聞社

## 街をつなぎ、人と人の時間をつなぐ

街の持つ特性、強み、立地を最大限に生かした開発を推進するため、「谷を活かし克服することで『2軸4象限』に分断された特色ある各エリアと、感度の高い周辺の街をつなぎ『広域渋谷圏』(Greater SHIBUYA)を形成する」との考え方を説明した。

さらに「街を変えるのは人。創造活動を刺激する空間を創出し、ICT（情報通信技術）産業やクリエイティブ・コンテンツ系企業の人たちに集まってほしい」と呼び掛けた。劇場やホールなどエンターテインメント施設の充実を通じて「人と人の時間をしっかりつなぎ、新しい情報文化を世界に発信できる街にしたい」と語った。

渋谷駅周辺開発は都市再生緊急整備地域に指定（2005年12月）されたことで大きく前進した。渋谷ヒカリエは都市再生特別地区として都市計画決定（2008年3月）され、容積

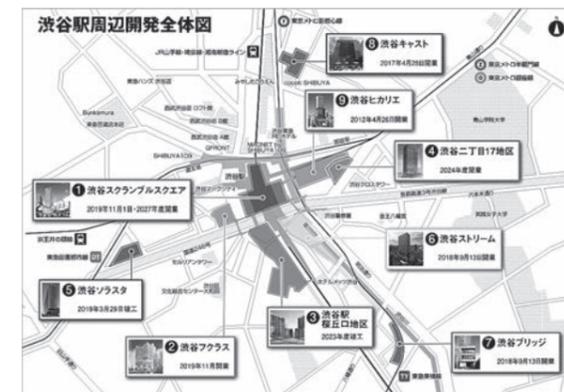
率は1370%（555%割増）。西澤氏は「国の大きな動きが事業を加速してくれた」と振り返り、特区となって実現できた歩行者ネットワークなどを紹介した。

続いて渋谷キャストや渋谷ストリーム、渋谷ブリッジといったプロジェクトを解説。11月に開業予定となっている「渋谷スクランブルスクエア」は高さ230メートルのメンタタワーとなり、最上階に屋外展望施設があるのが特徴だ。12月開業予定の「SHIBUYA FUKURAS」、2023年開業を目指す「渋谷駅桜丘口地区開発計画」を紹介しながら、「渋谷駅を中心とした約100万平方メートルの街が誕生する。ビルの機能だけでなく、インフラがいかに整備されているかも見ていただきたい」と述べた。

エンタテインメントシティSHIBUYAを実現するため、西澤氏は「クリエイティブワーカー

に選ばれ続ける街づくり」をポイントに挙げた。新しいアイデアを生み出すクリエイティブワーカーにはオフィス空間にとどまらず、創造活動の舞台となる環境、街づくりがますます重要になるとした上で、「アクティビティが自然に生まれる余白を残した街づくりが大切だ」と力を込めた。

新しいビジネスが生まれる創造活動を刺激する舞台の創出もポイントの一つに挙げ、「その舞台を演出する『総合プロデュースチーム』が未来の渋谷を創るだろう」と強調。駅中心5街区が完成し大規模なインフラ整備が終わり、広域渋谷圏を舞台として世界からも注目される新しい街づくりが始動するとし、「谷地形がつながり、周辺の街とつながることによって面白い街づくりができる。これからはハードだけでなく、ソフトも含めた街づくりの本格的なシーンに入っていき」と語った。



（東急HPより）

### I. 世田谷キャンパスの被災について

■既に各種の報道によってご周知のとおり、本学世田谷キャンパスは台風19号による多摩川の氾濫と、そこへの更なる流入を防ぐために急遽堰き止められた丸子川の氾濫、という重なる増水により、キャンパス内の殆んどの校舎が浸水被害を受けました。大学では、2週間の休校の後授業を再開、現在、被災した建物の復旧工事を急いでいます。

一方、同じ世田谷キャンパスでは、等々力キャンパスにある都市生活学部の移転のため、新校舎の新築工事も急ピッチで進んでいます。（移転は再来年の2021年春を予定）

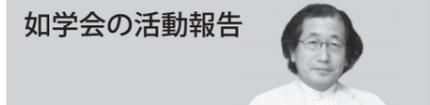
来年度からは、従来の工学部は理工学部となり、建築学科と都市工学科（旧・土木工学科、都市基盤工学科）は、新学部として新たに設けられる、「建築都市デザイン学部」に所属することになります。

こうした中、今回の災害は、「都市を研究する」東京都立大学として、謂わば「禍い転じて福となす」千載一遇のチャンスとしてポジティブにとらえ、建築都市デザイン学部が中心となり、理工学部、都市生活学部、環境・情報学部と、大学全体がひとつとなって、まとまったチカラを示すときかと思われまふ。三木千壽学長からも、今回の一件は、「都市」大学として、都市工学科が中心となって、被害状況の調査を行い、その検証から、新たな都市災害に対し、地域の核となる存在となるように、研究し、成果をまとめるように、との指示があったと聞いております。

## 山岡嘉彌

(546卒)

如学会会長



### 如学会の活動報告

### II. 今後の如学会活動について

■浸水被害による「大学90周年記念事業の中止」、「世田谷祭（大学祭）の中止」に伴い、「建築100人展2019・大学祭」の中止も余儀なくされましたが、年明けの3月7日[土]から15日[日]までの「建築100人展・浅草展」は開催します。[本誌(p.12-p.13、p.24)参照]  
災害の1週間後に迫っていた「後期進路ガイダンス2019」は急遽、横浜キャンパスに会場を移しながらも、例年以上の多くの企業のOB・OGや就職希望の学生さん達で、無事盛況裡に開催されました。直前の状況からは開催に悲観的な見方もありましたが、結果に安堵すると共に、熱心に来訪して下さった企業の同窓生各位には、この誌面をお借りして、篤く御礼申し上げます。

■忙しかった今年度の如学会行事もほぼ終りに近づき、年明け早々からは、いよいよ如学会組織の現体制が最終年として、仕上げと引き継ぎの年としての準備段階となります。その間、ボランティアとして大変な努力とご苦勞をされた執行部の面々や常任理事の各位には、感謝以外の何物でもありませんが、引き継ぎの次の新体制にも願うする方々や、引退し交代される方々、新規に加わっていただける方々など、今後の人選も進めていかななくてはなりません。自薦、他薦、いざでも、私共と共に知恵を絞り、汗を流して下さる仲間を募っております。是非、お申し越し下さい。歓迎いたします。



「如学会と学科教室の連絡会」(第1回6/12、第2回10/2実施)

### ■建築都市デザイン学部の新設について

既に大学HPや車内広告等でも告知されていますように、2020年4月より本学の学部構成が大きく変わります。長きにわたり同大の根幹を担ってきた工学部は「理工学部」に、2007年開設の知識工学部は「情報工学部」にそれぞれ改編・名称変更されます。さらに、建築・都市工学の専門能力やデザイン能力を含む問題解決能力を備え、社会の可能性を広げることができる人材の育成を目指し、「建築都市デザイン学部」を新設、工学部から建築学科と都市工学科がこちらに所属することになりました。これより、本学は来年度より7学部17学科の体制となります。

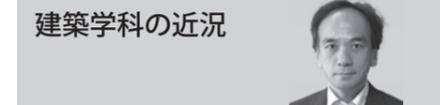
建築学科は本学創設以来の歴史を持つ、最も伝統ある学科の1つで、新学部に移ったからといって直ちに中身が変わることはありませんが、大学全体の創立100周年に向けた様々な改革や、社会の大きな変化の中で、時代のニーズに対応した教育・研究を充実させるよう、今後努力して参ります。

### ■「如学会と学科教室の連絡会」の新設について

本学科は、キャリア教育や就職支援の様々な場面において、平素より如学会の手厚いサポートを頂いておりますが、夏期特別講義や就職説明会など、毎年行われる様々な催しの企画を持続・発展させるにあたっては、新たな講師や相談員の発掘が重要になり、特に若いOBOGの参加を促すには、学科教員との情報交換が不可欠になってきます。そのようなことから今春、山岡会長より「如学会と学科教員の連携をより強化したい」とのご相談がありましたので、双方が意見を出し

## 小見康夫

建築学科主任教授



### 建築学科の近況

合える「場」となるよう「如学会と学科教室の連絡会」をつくることになりました。コアメンバーとして学科からは各系列より1名ずつ選ぶこととし、まずは大橋教授、西村教授、近藤教授、堀場教授、これに勝又教授、鈴木技術員、主任として私に加わることになりました。6/12にはキックオフの会合と懇親会があり、10/2には2回目の会合も開かれました。これから益々連絡会の場を活かして連携を図って頂きたいと思います。（左の写真参照）

既述の通り、2007年東京電機大・未来科学部、2011年工学院大・建築学部、2017年芝浦工大・建築学部へ続き、2020年の本学・建築都市デザイン学部新設により、東京理工系4大学（4工大）全てで建築学科が工学部を離れて新しい学部に移行します。これらは、建築学科の独自性や存在価値に対する社会からの期待が高まっていることの表れであります。今後ともご支援のほど、どうぞよろしく申し上げます。

### ■台風19号の浸水被害について

この度の浸水被害では、大変ご心配をおかけしました。現在、まずは復旧に向け大学をあげて取り組んでいるところです。ただし、復旧だけでは今後再び襲ってくるであろう水害（今回は内水氾濫でしたが、もはや外水氾濫も「想定外」とは言えなくなります）に対応すべく、短期・中長期の改善も不可欠で、建築学科・都市工学科のメンバーで「世田谷キャンパス水害対策WG（主査：勝又教授）」を立ち上げるようになりました。如学会の皆様の中にもこの分野にお詳しい方がいらっしゃれば、お知恵を拝借できればと思いますので、ご助言等お待ちしております（学科の方にご連絡頂ければ幸いです）。



# 宿谷昌則 教授 最終（再習）講義

## 「建築環境学 外論」 レポート

世田谷キャンパス（工学部）と横浜キャンパス（環境情報学部、環境学部）で教鞭を執った宿谷昌則教授の「最終（再習）講義」が、3月23日に横浜市都筑区の横浜キャンパスで開かれた。テーマは「建築環境学 外論—エクセルギー研究とその教育から見えてきたこと—」。建築環境学の「外」に飛び出し、挑戦し続けてきた34年間の研究・教育活動を振り返るとともに、「建築環境学を広げる。まだまだ面白いことがたくさんある」と笑顔で語った。

建築環境を身近な環境という宿谷氏は、人が建物の中で過ごす時間について「人生90年として80年以上、人生100年だと90年以上となる」と説明。一般の人だけでなく建築の専門家もこうした認識をあまり持っていないと指摘し、「当たり前で見過ぎてしがちだが非常に大事なことだ。この分野の学問を『建築環境学』と呼んでいる」と紹介した。

専門分野の建築環境学の「外」に飛び出した宿谷氏。「物理の概念として保存されるエネルギーが消費されるのは厳密に考えるとおかしい。ここをきちんとやろうと思った」ことがきっかけで、物理学の「エクセルギー」の研究を始めたという。

本学に着任して2年目の1986年、物理学者の押田勇雄上智大学名誉教授（1914～1988年）のエクセルギー研究会に参加。その資料の中で、計算間違いがあるのではないかと押田氏に手紙で尋ねた。「すぐに返事をいただき、間違っていたとつづられていた。先生の手柄に触れて感激したし、72歳で真剣にこれからどうしていくかを考えている姿勢に非常に感銘を受けた」と振り返った。

宿谷氏は卵からヒヨコにふ化する過程を引き合いにパッシブ型技術、アクティブ型技術それぞれの原形を解説し、「環境技術の原形が自然界の中にある。それをちゃんと見て、考えることが大事だ」と説いた。

さらに地球環境問題やエネルギー問題を引き起こしている要因について、「パッシブ型技術を捨てて、アクティブ型技術に頼りすぎた」と持論を展開。建築の環境をつくるには「パッシブ型技術が基本。パッシブ型技術を活かすアクティブ型技術をどうつくっていくかが大きなテーマだ」と力を込めた。建築環境をつくる技術を地球全体で考えるため、

### 山口 裕照（やまぐち・ひろてる）

身体（体内環境）、建築環境、都市環境、地域環境、地球環境、宇宙環境といった「環境の入れ子構造」を紹介。1年（四季）のリズムや、1日のリズムといった環境の変化に応じて人間は「明るい」「暗い」「暑い」「寒い」などを感じると説明した。

光、熱、空気、湿気の振る舞いをパッシブ、アクティブのハード技術で考える「空間デザイン」と、住まい方に関するソフト技術を考える「時間デザイン」があると解説。空間の議論に比べて、時間を顕在化させた議論があまり行われていないと指摘し、「空間デザインと時間デザインを一緒に考えてほしい」と呼び掛けた。

宿谷氏は建築環境と知覚情報の関係性を説きながら、「建築の環境は人間の体の延長だと考えている」と強調。加えて「自然は体の外側にあると思っっているけど、実は内側にもある」との見解も示し、「私が（電灯照明を使わず）暗い研究室で仕事をしていると思った方もいるでしょう。それはお日様の光のリズムを大事にしているから。主観だが電灯照明だけの日は疲れるし、よく眠れない」と話した。

「エネルギー問題という時のエネルギーとは、実はエクセルギーである」という宿谷氏。自然現象として必ず拡散が生じているとした上で、「エクセルギーとは『拡散を引き起こす能力』だと説明するのが深層に近い。もう一つは消費を厳密に定量化できることだ」と説いた。さらに「拡散を表現するには『エントロピー』の概念が必要になる」とも述べた。

「エネルギーには、まだ拡散していないエネルギーと、既に拡散したエネルギーがある。拡散したエネルギーにはエントロピーが関わっている。エネルギー全体のうち拡散したエネルギーを引く算すると、拡散していないエネルギーが残る。実はこれがエクセルギーとなる。この式を導いて、エクセルギーの値を計算できるようになった」。

物理学のエクセルギーという概念を取り入れて、人体を含む建築環境の成り立ちの解明に向け研究・教育活動を展開してきた。「人体のエクセルギー消費の速さと冬の室内環境」や「人体のエクセルギー消費の速さと夏の室内環境」など、得られた知見を解説。冬には適切な断熱により「温」放射エクセルギーを放出させやすくしたり、夏には外側日除けにより「温」放射エクセルギーの出力を減ら

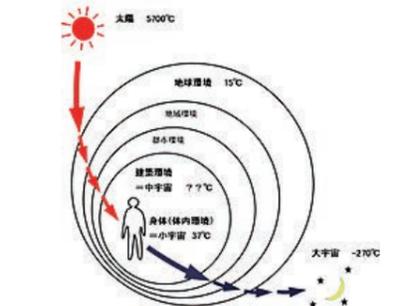
し「冷」放射エクセルギーを出力させやすくしたりと、人、建築環境、熱の振る舞いの関係性をエクセルギーを通じて説いた。

地球環境についてエクセルギー収支を改めて計算したところ、「太陽からの日射エクセルギーと、宇宙からの冷放射エクセルギーの二つで、気象の動きや生物の営みが行われている。地球は熱源と冷源の二つで回るようにできていることが分かった」という。

宿谷氏はこれまでの研究・教育活動を振り返り、「多くの人が手を付けていない学問が残っていたという印象が強い。マイペースで研究ができ、借り物ではない学問をつくることができたかなと思う。自分の頭で考え、判断し、行動する。そういう力を培うことが大事だ」と強調した。

東日本大震災が起こる前までの17年間、国が子どもたちなどを対象に、原子力や放射線をテーマにしたコンクールを行っていたと問題を提起。「自分の頭で考え、こうしたことに鈍感であってはいけない。それは未来の人たちに対する、われわれの責任だ」とメッセージを送った。

定年後について宿谷氏は、「あまり変わらないけど建築環境学を広げ、もっと面白くする。『真』（科学）、『善』（技術）、『美』（芸術・文学）を持って学問をやっていきたい。建築環境学外論はまだまだ続く」と締めくくった。



図：環境空間の入れ子構造  
上図では、表面温度約5700℃の太陽から家や人を経由して-270℃の宇宙環境への「流れ」を表している。この「流れ」をエクセルギー・エントロピー過程と考えることができる。私たちの身体を含む様々な系は、エクセルギー・エントロピー過程という「流れ」の中に形態を創り出し動きを営んでいる。  
(H10. 建卒・日刊建設工業新聞社)

### 宿谷昌則先生の「再習ゼミ」

宿谷先生の最終講義に研究室OB・OGでなにか貢献したいという想いから、よくある最終講義+懇親会とは異なる趣向の会を先生に提案しました。最終講義の1年半ほど前のことです。宿谷先生は権威主義も湿っぽい会もお嫌いであることをわれわれは知っていますので、再び先生に習うための講義“再習講義”、そしてゼミ形式で研究室を振り返る会“再習ゼミ”を宿谷先生に提案しました。「最終」ではなく「再習」という当て字を用いたのは、「宿谷先生の講義（講演）が最終になるはずがない。最終になってたまるか」という想いからです。われわれのこのような提案に宿谷先生から快い賛同のお返事をいただきましたので、参加者全員で楽しめるような再習ゼミを、宿谷研OB・OGの有志主催で実施しました。

再習ゼミは、宿谷研のエピソード群を研究室OB・OGや外部応援者の方に“プレゼ”してもらい、宿谷先生に講評していただく——という内容の企画でした。

研究室創生期のエピソードでは、冬季に研究室の天井に生じた結露水が落ちてきて原稿を濡らしてしまったことや、ソフトボール大会で先生が見せた負けず嫌いの一面が紹介されました。東京都立大学の横浜キャンパスはエコキャンパス（宿谷先生監修）の先駆例なのですが、それとは大違いの劣悪な熱環境のもとで建築環境の研究室である宿谷研が始動したことに、参加者のみなさんが驚いていました。

エクセルギー研究の草創期に関するエピソードでは、宿谷先生と大学院生達とが、未解明の現象



懇親会

### 高橋 達（たかはし・いたる）

に対して毎日議論しては理解をあらため、深めていくという日常が紹介されました。未知の奥深いテーマを解明していきたい——そう願う先生と大学院生達とが、長時間にわたる議論を毎日繰り返している様子がありありと再現されました。幸福な研究の時間の一部を参加者も追体験しました。研究が進展していくと宿谷先生の研究と先生ご自身に対するファンが増えることになり、宿谷先生を講師に迎えた社会人向けセミナーが研究室の外部の方によって企画されることになりました。その一つであるオikosセミナー（事務局：西田信子さん）の活動紹介では、研究室の外にもおもしろく楽しい宿谷ワールドが広がっている様子をお聞きしたわけですが、それとともに学生達がいかに楽しそうに研究を進めていたか、宿谷先生がいかに教え子達に敬愛されているかも紹介されました。

最後に、宿谷先生の大学教員としての活動を奥様の託子さんに講評していただきました。奥様は先生の講義を聴講するのは実は今回ははじめてだそうで、とても面白く楽しい内容に深く喜ばれている様子でした。また、ご令嬢である悠美さんからは、趣味のようにご自宅で勉強している宿谷先生のお姿をご紹介していただきました。

余談になりますが、ある参加者の方と後日お会いした際に「登場するOB・OGの一人ひとりが個性的でありながら全体が調和して一つの大きなまとまりになっている。これがまさに宿谷研だと感服しました」という感想をいただきました。「自分の頭で考えることは楽しい。だから“常識”や権威に流されることなく自分の頭で考えよう」という再習講義のメッセージが、再習ゼミを運営する私たちOB・OGにはからずも表れていたようです。

宿谷先生は、出版されたばかりの著書“Bioclimatology for Built Environment” (CRC Press) を再習講義の場でご紹介していたほどで、まだまだ建築環境の研究を進めていくバイタリティーに満ち溢れている様子です。そのような、飛びぬけて優れた研究者である宿谷先生に、いまだに温かく接していただいている幸福を感じずにはられません。これからも宿谷先生に再び学び、その教えを自分なりにかみしめて仕事を深めたい、人生を歩んでいきたいと思えます。

(H03. 建卒・東海大学工学部建築学科教授)

# 東京都市大学建築学科同窓会・如学会主催 OB・OGによる 進路ガイダンス 2019 盛大に開催

## 第7回 進路支援プログラム

### ■開催の主旨

今年度の「進路ガイダンス」は、2部構成として開催日を分け6月+10月開催と大きく変更させていただくこととなりました。これまでの第1部「業種別仕事紹介」を6月に前倒しで実施、第2部「企業別仕事紹介」を10月開催と分けて実施致しました。  
6月に開催しました「前期進路ガイダンス」は「業種別仕事紹介」として8月に学生が研究室を決める前に「自らのキャリアデザインの選択」に先立ち「人生設計・事項適正資質の分析等、自らが良く考え、進路を決断する参考にしてもらうこと」を主旨としております。  
10月の「企業別仕事紹介」は、直接OB・OG各企業の概要を知り、親身になって相談に乗っていただける場でもあります。

進路ガイダンス委員長 齊藤 博

台風の影響で世田谷キャンパスが機能不全となり、「90周年記念式典」をはじめ、「建築100人展・大学展」が中止となりました。このような状況で、今年の「後期進路ガイダンス」は急遽横浜キャンパスで開催しました。休講中であり他のキャンパスで実施することで学生が集まるのかが不安材料でした。杞憂に終わり、参加学生149名、昨年の91名を遥かに超える人数でした。他キャンパスからも35名が参加してくれました。大学の校友・後援会連携の深山氏、横浜キャンパス学生支援センターの島田氏と金谷氏、等々カキャンパス学生支援センターの和田氏と北村氏そして校友会学支援助成委員会で活動をしている機械工学科の白木教授にご尽力いただき、多大な成果を上げることができました。この場を借りて篤くお礼を申し上げます。

事業局長 丹羽 謙治

## 進路ガイダンス準備会

- 日時： 2019年8月28日 [水] 14:00～18:30
- 場所： デイナ・ギヤンドス (港区・住友クラブ系レストラン)
- 参加： 企業関係者数：45名 (学生なし。OB・OG他社会人のみ) 来賓4名、如学会役員10名

「後期進路ガイダンス」に先駆け、8月には、その「準備会」を例年通り開催。各企業OB・OGから、ガイダンスに関する直接的な意見を聞く場を設けました。小見康夫主任教授、小林茂雄就職担当教授からのご挨拶と住田暁弘学生支援部・部長から社会全般の景気から企業の趨勢分析、及び本学の建築学科に至るまでの、就職状況の詳細なデータをもとにした、密度の高い充実したレクチャーをお聞きすることができました。



## 前期進路ガイダンス

- 日時： 2019年6月19日 [水] 14:00～18:30
- 場所： 東京都市大学 世田谷キャンパス
- 参加： 企業数：15社 学生数：世田谷キャンパス学生：95名

### □実施プログラム

**第1部 業種別仕事紹介 13:00-15:45 4号館建築学科棟1階「製図室」**

学科教室の先生から就職の流れ、大学院への進学手順の説明の後、以下の業種についてOB・OGの16人の講師の方々から概略をお話しいただきました。業種別1講師8分(入れ替え時間込み10分)で「パワーポイント」にて所属する「業種・業界」の紹介と「自分が会社に就職してからこれまでに得た“人生を通してのキャリア”」等について学生に語ってもらいました。

[業種名]	[企業名]	[担当者(卒業年)]
1 官公庁等	川崎市	齋藤 史人 (H25)
2 アトリエ系設計事務所	アーキビジョン広谷スタジオ	石田 有作 (H04)
3 エンジニアリング系設計事務所	建築構造研究所	高橋 修一 (H20)
4 組織設計事務所	東畑建築事務所	辻村 典子 (H18)
5 組織設計事務所	三菱地所設計	江口 祥平 (H19)
6 総合建設会社 (設計)	竹中工務店	竹島 靖人 (H18)
7 総合建設会社 (施工)	五洋建設	桑原 健 (H29)
8 総合建設会社 (中堅)	大本組	石川 宣文 (H07)
9 環境・設備関連	須賀工業	齋藤 大輔 (H29)
10 インテリア・ディスプレイ	ディー・サイン	川上 竜 (H23)
11 技術・材料関連	旭ビルウォール	島田 大 (H03)
12 鉄道・不動産・ディベロッパー関連	JR東日本都市開発	皆川 寛章 (H24)
13 情報関連	NTTデータ先端技術	大川 智生
14 マスメディア	トランスコスモス	崔 烈浩 (H10)
15 海外留学・海外就職	SOGO 建築設計	十河 彰 (H16)

**第2部 懇親会 17:00-18:30 会場：1号館4階「ラウンジ・オーク」**

立食形式の懇親会で、第1部講師の方々と共にフランクな形で質疑応答を続けることができました。



**前期進路ガイダンス** | **後期進路ガイダンス**

特別協賛：建築資料研究社  
協賛：旭ビルウォール、大本組、五洋建設、佐藤工業、三見金属工業、ジーク、ジェイアール東日本都市開発、須賀工業、鈴与三和建物、スターツCAM、総合資格、大成建設、(企業出展) 大成コーレック、高松建設、巴コーポレーション、鉄建建設、東洋建設、東洋熱工業、東畑建築事務所、戸田建設、成田国際空港、日建ハウジングシステム、日新工業、日本管財、ノザワ、ピーエス工業、不二サッシ、フジタ、三上建築設計、三橋設計、安井建築設計事務所 (五十音順)

## 後期進路ガイダンス

- 日時： 2019年10月23日 [水] 13:30～18:30
- 場所： 東京都市大学 横浜キャンパス
- 参加： 企業関係者数：83社 178名 学生数：総数149名 (昨年91名) 世田谷キャンパス学生：114名 (昨年91名) 横浜、等々カキャンパス学生：35名 参加学生昨年比：163パーセント

### □実施プログラム

**第1部 企業プロモーションビデオ紹介 17:00-18:30 会場：4号館1階「学生食堂」**

2分間程度のビデオで各企業による紹介が放映され、多くの学生さんが視聴しました。

**第2部 企業別仕事紹介 15:00-17:00 4号館2階「学生ホール」**

OB・OGの方々とは直接お話をさせていただきます。これは学生の皆さんにとって生の情報を得られる貴重な場となると思います。なお、各ブースはできるだけ多くのOB・OGと交流をいただくために最大10分程度毎の入替制を予定しています。

**参加企業 2019年度参加社-84社**

官公庁者	川崎市、台東区、都市再生機構、横浜市
アトリエ設計事務所	三上建築事務所
エンジニアリング設計事務所	造研設計
組織設計事務所	石本建築事務所、NTTファシリティーズ、久米設計、東急設計コンサルタント、東畑建築事務所、日建設計、日建ハウジングシステム、日本設計、ビーディシステム、松田平田設計、三橋設計、三菱地所設計、安井建築設計事務所、山下設計
総合建設会社	朝日エディック、安藤・間、大林組、大本組、奥村組、鹿島建設、五洋建設、佐藤工業、清水建設、西武建設、鏡高組、大成建設、大成コーレック、大和ハウス工業、高松建設、竹中工務店、鉄建建設、東急建設、東洋建設、戸田建設、飛鳥建設、巴コーポレーション、西松建設、長谷工コーポレーション、フジタ、前田建設工業、三井住友建設、若築建設
環境・設備関連	新菱冷熱工業、須賀工業、大気社、ダイダン、太平エンジニアリング、東洋熱工業、西原衛生工業所、ピーエス工業
住環境関連	大東建設、東急Re・デザイン、長谷川萬治商店、三井ホーム
インテリア・ディスプレイ	ジーク、丹青社、ディー・サイン、三越伊勢丹プロパティデザイン
技術・材料関連	旭ビルウォール、三見金属工業、日新工業、ノザワ、不二サッシ、東邦シートフレーム
鉄道・不動産・ディベロッパー関連	伊藤忠アーバンコミュニティ、ジェイアール東日本都市開発、鈴与三和建物、スターツCAM、東急、成田国際空港、日本管財、森ビル
マスメディア・情報関連	NTTデータ、建築資料研究社、総合資格、トランスコスモス、Luminova Japan
海外就職	加藤比呂史

**第3部 懇親会 17:10-18:30 会場：4号館1階「学生食堂」**

冒頭に小林茂雄就職担当教授より、本年の就職状況の説明あり。懇親会は立食形式で、第2部で話し足りなかったことを更にフランクな形で積極的に質疑応答を行いました。

お問い合わせ：如学会進路ガイダンス委員会委員長 齊藤博 (S44) Mail: toshibunka@t-lx.co.jp

# 特別養護老人ホーム『花子』内覧会

設計：栗田祥弘建築都市研究所

2019.03.21

記：新居 仁



既存校垂桜を生かした散策路からエントランスにつながる西側外観

花子は、JR豊田駅から北に徒歩10分ほどのところに建設された。

UR都市機構のルネッサンス計画2-多摩平の森を抜けると、日本茶のお濃茶から抹茶、煎茶と段階的に階ごとに塗り分けた、緑色の外壁が先ず目に飛び込んでくる。

足元周りはランドスケープデザイン：ノハラ/高橋とのコラボレーションによる“四季折々を楽しめる”をコンセプトに、自然な曲線の小道と、流水のように割られたコンクリートの間に植栽を入れた外構が建物テラスと一体化され程よい広がりを作り上げている。

建物に近づく、外壁（ジョリパット仕上げ）のテクスチャーに変化を持たせ、各室の空調室外機を黒色の立て格子で隠すといった細やかな設計対応が見て取れる。

1階：シンボルツリーの枝垂れ桜の脇を抜け玄関に入ると、分節化された施設の中庭からの外光が入る明るいロビーラウンジに出る。このス

ペースは地域交流スペースとしても利用されるように計画されるとのこと。会議室、地域連携スペース、施設用託児室の各個室が奥に配置されている。

色分けされたサインはひらがな/たて書き表記で、新鮮なイメージに加え、和モダン印象を受けた。トイレサインピクトはヒト型をシルエットに採り入れたデザインでかわいらしい。

南面のデイサービスセンターは受付事務に直結し職員の目配りがスムーズに行える配置となっている。

2階・3階：ユニット型特養の個室（約11㎡）が並び、<ふじ>等の階表記・ユニットごとに<すいせん>等の花の名前が色分けされたひらがなサインが付き、自分の居場所がわかるようになっている。このテーマはさらに各個室の扉の壁紙を変え部屋の中の壁の一面を同じ壁紙で仕上げ、共同利用の中での個室感を強調したつくりになっている。

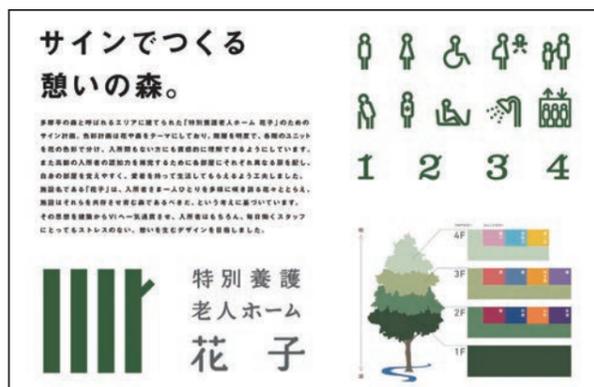
共同トイレは個室の並びより少し前に出し、テーマ色の深緑に塗られ視認性を高めている。ユニット個室の間にある食堂は南北に抜け、光や風を感じられるようなデザインでまとめられている。

4階：従来型の多床室は隣接室とのつながりを欄間のような開口を設けることで処理し、個室感を出す工夫が施されている。

東京都のデザインカラーコード、UR都市機構の多摩平の森エリアでの建物として多くの協議を重ね、本施設の事業者である隣接病院の理解も得て出来上がった計画は、今までにないカラーコードを地域の風景と一体化させるといった設計者の意欲的な取り組みが見られ、充実した施設内覧会であった。

2012年グッドデザイン賞受賞の「ゆいまるる食堂」など周辺散策もお勧めする。

(S48卒・新居仁デザイン・HAD)



サイン計画



エントランスホール

宇野美智子氏 (S54・英語英文卒/カンタスオーストラリア航空元・CA・校友会常任幹事) 同行  
週末3連休利用：オーストラリア3泊6日(機中2泊)弾丸ツアーレポート  
主催：東京都市大学建築学科同窓会・如学会 共催：柏三水会

## 「TCU学生・TAP留学中の2大学を訪ねて」 東京都市大学留学生を激励し、美しいパースとシドニーを観光、 オペラハウスでミュージカルを堪能

2019年9月21日 [土] - 26日 [水] ANA 直行便開通記念



エリザベスキ地区 (パース中心街)



TAP留学先：エディス・コーワン大学 (パース市)



エディス・コーワン大学・TCU留学生



TAP留学先：マドック大学 (パース市)



マドック大学・TCU留学生

エディス・コーワン大学・留学生

### 参加者リスト (計12名)

校友会・柏三水会				如学会			
本間 久	S38 (経営)	経工会	モンブラン 代表取締役	岩崎 堅一	S37 (建築)	如学会 顧問	東京都市大学名誉教授、岩崎建築研究室
東島 義澄	S39 (通信)	通友会	元・日本システム開発 代表取締役社長	齋藤 公彦	S43 (建築)	如学会	東京都市大学 総合研究所 産学官連携コーディネーター
土子 肇	S41 (通信)	通友会	元・東洋電機製造	山岡 嘉彌	S46 (建築)	如学会 会長	山岡嘉彌デザイン事務所 代表
白岩 且久	S49 (土木)	緑土会	白岩工務所 代表取締役	丹羽 謙治	S48 (建築)	如学会 副会長	デザインサクル 代表取締役
宇野 美智子	S54 (英文)	新美砂会	校友会 常任幹事	酒井 孝博	S51 (建築)	如学会	日本設計
大澤 方江	学外		武蔵工業会館 管理部長	露木 博視	S55 (建築)	如学会 副会長	オフィス露木 代表取締役



キングスパーク (写・16)



思い思いの場所で学習・廊下 (写・14)



マードック大学 (写・15)



マードック大学・庭園 (写・13)



エディスコーワン大学・学生寮 (写・11)



美しいマードック大学の庭園 (写・12)



エディスコーワン大学・正面入口 (写・9)



エディスコーワン大学・図書館 (写・10)



ロフスター料理 (写・7)



エリザベスキー (写・5)



ベルタワー (写・4)



チーズパレルにてランチ (写・3)



ワインテイティング (写・1)



チーズパレル (写・2)

本年9月21日から26日までの5泊6日(ただし機内泊2日) 如学会主催の「パース・シドニー視察ツアー」が行われました。私は新美砂会の所属ですが、2000年代にオーストラリアの企業に勤務しており、シドニーに3年間住んでいましたので、少しばかり現地のことに詳しいということで、如学会の方からお声をかけていただきました。これも何かのご縁と思い、今回は6月の企画の段階から参加させていただきました。

この旅行には大きな2つのミッションがありました。まず第1は、2015年度から始まったTAP「東京都市大学オーストラリアプログラム」に参加され、エディスコーワン大学とマードック大学で学ばれているTCUの学生さんたちを応援することです。この2つを軸にしたスケジュールで6日間のオーストラリア旅行を楽しんできました。そのご報告をいたします。

1日目(9月21日・土曜日) 成田よりパースまでの移動日 往路フライトは9月より就航したANAのパーズ便を利用する。2015年5月までカンタス航空がパーズ直行便を運航していたが、それ以降は直行便がなかった。直行便でも飛行時間は約10時間と長い。この路線が復活したことでTAPに参加される学生さんたちにも便利になったはずである。

2日目(9月22日・日曜日) 「パースは「世界一住みやすい街」といわれており、地中海性の温暖な気候に恵まれている。まず、ドライバーのゴードンさんの運転で、ガイドのみほさんとカバン・マイルドパークに向かう。説明会の際には、男性陣は動物園には興味がないような様子だったが、実際にコアラを見た途端、大興奮となり撮影大会となった。その他、オーストラリアの固有種「ウォンバット」「カンガルー」などを間近に見る。(写真) ・スワンリバー沿いのワイナリーを見学する。樹齢200年以上のブドウの木がある「マンドゥーンエステート」で、4種のワイン

# パース・シドニー都市建築視察ツアー

## 東京都市大学留学生を激励し、美しいパースとシドニーを観光、オペラハウスでミュージカルを堪能



文● 新美砂会 宇野美智子 (S54・英語英文卒)

如学会研修交流ツアー(共催・柏三水会) 9・21-26(3泊6日・機中2泊)

U文具類を、ベッキーさん、ダイアンさんに託して、キャンパスを後にした。(写・8) ・午後パースを一望できる「キングスパーク」(写・16) へ向かった。オーストラリアには世界の半数以上のワイルドフラワー200種が自生しており、この季節はキングスパークフェスティバルが開催されていて、花々の競演を楽しめる。 ・パース市内の新旧建物を視察した。

「パース図書館」(写・17) は2015年にオープンしたまだ新しい建物で、4階の中央にはベンジャミンの木が植えられている。その周りは子供たちだけが使えるスペースで、ダンスの練習をしたりしていた。市内中心の「キング・ストリート」、「ロンドンコート」、などを視察。 ・夕食はヒルトンホテル内のレストラン「アデルファイ」で、ワインとオービーフアスターキ200グラムを楽しんだ。 ・パース空港から弾丸ツアーの醍醐味である、深夜便「レッドアイ」と呼ばれるフライトでシドニーに向かった。オーストラリア大陸は広いので、西東への移動は飛行時間4時間20分もかかる。今日の歩数は、約3800歩。なんとこのことが、バスのドライバークロドンさんは御年88歳!だった。

4日目(9月24日・火曜日) ・早朝6時15分にシドニー到着。夜行便で皆様やや疲れ気味。連日お天気に恵まれていて、今日も青空がすがすがしい。ガイドの千穂子さんのお迎えで、空港近くのバイの店「バチエットハウス」で軽く朝食を取った後、シドニー市内へ向かう。 ・シドニーの交通渋滞は深刻で、一度廃止になった路面電車を再度建設中だが、これで渋滞が解消するとは思わないとガイドの千穂子さんが話してくれた。今日はスムーズに市内へ車は進み、パディングトンの街並みを通り眺望抜群の撮影ポイントである「ミセス・マッコリーズ・ポイント」へ到着。オペラハウスとハーバーブリッジの2大ランドマークを同時に眺められるので、人気の撮影スポットである。(写・18) ・ガイド千穂子さんの臨機応変な対応で、急遽「ハーバーブリッジ」を渡り、ミルソンスポイントへ向かった。ここからエレベーターを利用して、ハーバーブリッジに上がり、歩道を少し歩いてみた。世界遺産に登録されたハーバーブリッジは、6車線の車道と歩道、2本の線路がある。 ・さて今回のメインイベントの一つでもある「オペラハウス」設計・ジョン・ウットソン(写・19、20)の日本語ツアーに参加した。日本語ツアーの人気者たかさんがガイドでついでに、歴史、設備、建築に関する裏話を聞くことができた。一番大きな「コンサートホール」も見学できた。(写・24) 14年の歳月をかけて2006年に完成したオペラハウスはシドニー湾に映えてとても美しい。(写真)

その後、「オーロラプレイス」(設計・レンツ・ピアン) (写・20、21)、「マーティンプレイス」を視察して、昼食のレストラン

テイティングをした。(写・1) ・昼食を兼ねて、「チーズパレル」でチーズとワインの試食試飲をした。地元でチーズにあふワインと一緒に試飲できる人気の店で、バルコニー席はオージーで混雑していた。ワイン4種は試飲のはずが、フルボトルを提供された。太っ腹のお店だ。追加の注文をして、チーズとワインを堪能した。(写・2、3) ・お腹が満たされたがあと、市内の建築物を視察した。

「エリザベスキー」(写・5、6) は、スワンリバー沿いの新しい観光場所として2015年に完成した。もともとは、フェリーのなどの船着き場として利用されていたが、人工的な入り江が作られそれを囲むように散策エリアが整備され、まわりにはシンボルの大きなオブジェや「ベルタワー」(写・4)、高層ビル、宿泊施設も建設されている。 ・夕食は、地元で50年以上も愛される本格イタリアン「ソレント」で、半身のロフスター、ムール貝、オイスター、カラマリ、シーフードナイフをいただいた。今日は約一万歩歩いた。

3日目(9月23日・月曜日) 今回のミッションである「エディスコーワン大学」と「マードック大学」の視察を行った。 エディスコーワン大学は、東京ドームの約7倍の広さのキャンパスでとにかく大きい。TAP担当のベッキーさんが案内をしてくださり、「学生寮」や「図書館」を見学した。(写・9、11) ・マードック大学では、流暢な日本語を話されるダイアンさんが案内を案内してくださり、学内とは思えない素敵なレストランのテラスで昼食を取った。キャンパスのあちこちでワイルドフラワーが咲いていて、自然の中にあるオーストラリアの良さを感じられる大学であった。(写・12、15) キャンパス内にはオージーやアジアからの留学生が大勢いたが、なぜか日本人には一人も会えなかった。TCUの学生さんたちとの面会も予定していたが、大学の春休みと重なり残念なことができなかった。学生の皆さんはこの休みを利用してオーストラリア国内を旅行しているらしい。2つの大学をそれぞれに日本から準備した土産(TC

向かう。 「飲茶」のランチとビールでパワーをチャージ、午後の視察に備える。 ・セント・ジェームズ教会、「セント・メアリーズ大聖堂」(写・22)、「ハイド・パーク・バラックス博物館」などを見学したのち、ホテルへ。夜の観劇に備えて、衣替えをする。 ・午前中に訪れたオペラハウスで、日本でも話題の「ウエスト・サイド・ストーリー」を観劇した。交通事情を考慮して、「カード」[OAG]カードを使用して電車に乗った。夕食はオペラハウス内の「ポートサイド」でフレンチベースのモダンオーストラリア料理、3コースメニューをいただいた。目の前に広がるハーバーブリッジの夜景を楽しみながらワインもすすむ。(写・23) ・ほろ酔い気分での観劇、マリアが唄う「トトゥナイト、トトゥナイト」が心地よく、爆睡者が数名いた。今日の歩数は、21800歩。

5日目 最終日(9月25日・水曜日) ・今日はガイドさんもバスもなく、私でご案内する自由行動の日。ハブニングは数回あったが、大ごとにはならずここまできている。 ・吉良でセントラル駅からライトレールを利用して、「フィッシュマーケット」に向かう。地元オージーや観光客で混雑しているのので、現地の友人2人にお手伝いをお願いした。食べ物を狙うカモメやアイビス(トキの仲間)で長い黒いくちびが特徴と戦いながら、フィッシュマーケットでオイスターやロフスターのランチを楽しんだ。 ・市内に戻り、完成したばかりの隈研吾の竹の建築(写・25)をはじめとして、「ワン・セントラル・パーク」(設計・ジャン・ヌーベル) (写・26)、「UTS(シドニー工科大学)」のキャンパスを視察する。UTSは有名建築家を起用して攻めた校舎を建てているといわれている。フランク・ゲーリーが設計した「ビジネス・スクール」(写・27)の建物は、見た目が段ボールの緩衝材に似ていることから「PaperBox」とも呼ばれている。また、今年オープンした新校舎(写・28)はガラスとスチールを使った曲線的なデザインで、シドニーの設計事務所「JMT architects」が担当している。今日も歩いて、歩いて、17000歩。 ・シドニー空港からANA888便で羽田空港へと帰路に着く。 6日間の短い旅行でしたが、内容が充実していたことで長く感じた旅でした。伝え聞いていた如学会の弾丸ツアーですが、ハードにもかかわらず全員が無事に帰国できたことに感謝しつつ、五感を刺激するオーストラリアのさるなる魅力を再認識した旅でした。

宇野 美智子 校友会常任幹事 1961年 東横学園女子短期大学英語英文科卒。全日空のグラウンドスタッフを経て、ブリティッシュエアウェイズ、カンタスオーストラリア航空で客室乗務員として勤務。その後、日本と大手米系法律事務所秘書。



UTS新校舎 (写・28)



UTSビジネス・スクール (写・27)



ワン・セントラル・パーク (写・26)



セントメアリー大聖堂 (写・22)

限/竹の建築 (写・25)



オーロラプレイス (中央・写・21)



オペラハウス・ポートサイドで夕食 (写・23)



シドニー・オペラハウス (写・19)



オペラハウス・コンセプト模型 (写・20)



パース図書館 (写・17)

ミセス・マッコリーズ・ポイント (写・18)



教室：22B教室

1 時限 (13:00~14:20)

SOGO建築設計 十河彰・麻美氏 (H16卒)
2004 武蔵工業大学建築学科卒 (手塚研)
2006 東京藝術大学大学院修了 (六角研)
2008 カリフォルニア大学ロサンゼルス校大学院修了 (フルブライト奨学生)
2009-15 新居千秋都市建築設計 勤務
2015- SOGO建築設計 共同主宰
2004 武蔵工業大学建築学科卒 (手塚研)
2010-12 キー・オペレーション 勤務
2012- SOGO建築設計 主宰

[テーマ] 建築からの学び

2 時限 (14:30~15:50)

安井建築設計事務所 浪川 稜馬氏 (H27卒)
2015 東京都市大学建築学科卒 (堀場研)
2017 東京都市大学大学院工学研究科 建築学専攻修士課程修了 (堀場研)
2017- 安井建築設計事務所 入社

[テーマ] デジタルツールとの付き合い方

3 時限 (16:00~17:20)

ログログ 中村 泰貴氏 (H15卒)
2003 武蔵工業大学建築学科卒 (手塚研)
2005 武蔵工業大学大学院工学研究科 建築学専攻修士課程修了 (手塚研)
2005 アトリエ・天工人 勤務
2008 アーキヴィジョン広谷スタジオ 入社
2010- Luminova Japan [ログログプロダクトマネージャー兼務]

[テーマ] 建築/建設×ICTの実例と可能性

4 時限 (17:30~18:10)

BIMの日 討論会 『建築の付加価値をつくる』
左記3名による討論会
司会：濱田 祐也 (H18卒)



教室：312教室

1 時限 (13:00~14:20)

石村大輔 + 根市拓 根市拓氏 (H26卒)
2014 東京都市大学建築学科卒 (手塚研)
2015-16 Miller & Maranta
2017 Università della Svizzera Italiana Accademia di Architettura Mendrisio 修了
2017- 石村大輔 + 根市拓

[テーマ] スイスでの経験から

2 時限 (14:30~15:50)

お/マ/シェ/アー/キ/テ/ク/建築都市設計 清水 亨氏 (H17卒)
2005 武蔵工業大学建築学科卒 (岩崎研)
2005 東京藝術大学大学院美術学部 建築学専攻修士課程入学 (黒川研)
2006-07 Chur Institute of Architecture Switzerland 留学
2008 東京藝術大学大学院美術学部 建築学専攻修士課程修了 (黒川研)
2008-16 maurusfrei Architekten
2016- Hosoya Schaefer Architects

[テーマ] きっかけをつくる

3 時限 (16:00~17:20)

合同会社 短 加藤 比呂史氏 (H16卒)
2004 武蔵工業大学建築学科卒 (岩崎研)
2004 藤本社介建築設計事務所勤務
2010 デンマーク・コペンハーゲンに渡る (ヨーロッパを中心に COBE, KATO/Victoria, Ramboll, FRMUSなどで建築監理や公共空間のコンセプトアドバイザーに従事)
2018 在野市に、合同会社 短\_KANALLを共同設立 (栃木県佐野市のまちづくり、国際クリケット場などの計画振興のため)
日本全国、ヨーロッパでのプロジェクトが連年中

[テーマ] 地球に住むような感じで

4 時限 (17:30~18:10)

国際の日 討論会 『世界を意識した時』
左記3名による討論会
司会：栗田 祥弘 (H10卒)



教室：312教室

1 時限 (13:00~14:20)

エネクスレイン 小室 大輔氏 (H03卒)
1991 武蔵工業大学建築学科卒 (宿谷研)
1993 武蔵工業大学大学院工学研究科 建築環境学修士課程修了 (宿谷研)
卒設計で設備設計に従事
1999 H5フラナーアルビデテン/ドイツ・カッセル
2000 ガーナム/オーストリア/ドイツ/ベルン
2007- 一級建築士事務所エネクスレイン/enexrain 開設
2009 ケルン工科大学建築学科修了

[テーマ] 資源と環境・保存と流れの視点から見えること

2 時限 (14:30~15:50) - 3 時限 (16:00~17:20) エコハウスワークショップ

中田製作所 中田 理恵氏 (H18卒)
2006 武蔵工業大学建築学科卒 (手塚研)
2008 首都大学東京大学院建築学専攻修士課程修了 (プロジェクト研)
2008-13 日建設計 勤務
2013- 中田製作所
2013 SD レビュー入選
2018 東京建築士会 これからの建築賞

[テーマ] エコハウス DIY 温熱環境きほんのき

4 時限 (17:30~18:10)

環境+WSの日 討論会 『建築現場の過去・現在・未来』
左記2名による討論会
司会：小笠原 岳 (H11卒)



教室：22B教室

1 時限 (13:00~14:20)

東京都市大学 藤井 研一氏 (S57卒)
1982 武蔵工業大学建築学科卒 (紀谷研)
1984 武蔵工業大学大学院工学研究科 建築学専攻修士課程修了 (紀谷研)
安井建築設計事務所
三菱地所・設計監理部門
2001 三菱地所設計・出向
2014 丸の内熱供給・出向
2018- 東京都市大学工学部建築学科教育講師

[テーマ] キャリアデザイン - これからを考える -

2 時限 (14:30~15:50)

大成コーレック 竹下 加奈子氏 (H17卒)
2005 武蔵工業大学建築学科卒 (手塚研)
2007 武蔵工業大学大学院工学研究科 建築学専攻修士課程修了 (手塚研)
日建ハウジングシステム 入社
2007 淡路はたらかち研究島 入所
2013- 大成コーレック 入社

[テーマ] 縁がなくなるのづくり

3 時限 (16:00~17:20)

浅井アーキテクト 浅井 百合氏 (H19卒)
2007 武蔵工業大学建築学科卒 (手塚研)
2009 半年間 Claus en Kaan architecten でインターンシップ (オランダ)
2010 横浜国立大学大学院 Y-GSA 修了
2010-13 新居千秋都市建築設計
2013- 浅井アーキテクト設立

[テーマ] 「むずかしそうなことほど面白い」

4 時限 (17:30~18:10)

建築キャリアデザインの日 討論会 『キャリアデザインの多様性』
左記3名による討論会
司会：中田 理恵 (H18卒)



教室：22B教室

1 時限 (13:00~14:20)

元・清水建設 徳田 浩氏 (S52卒)
1977 武蔵工業大学建築学科卒 (江口研)
1979 武蔵工業大学大学院工学研究科 建築学専攻修士課程修了 (江口研)
1979 青木建設 入社
(北米：ワシントンDC、ロサンゼルス駐在)
1983 Construction Project Management Course, University of Maryland, USA
1989 清水建設 入社 (生産技術開発を担当)
1990 International Management Seminars, Georgia Institute of Technology, USA
2015 清水建設 退社

[テーマ] 建築生産計画の現状と課題

2 時限 (14:30~15:50)

造研設計 曾根 卓也氏 (H26卒)
2014 東京都市大学建築学科卒 (濱本研)
2016 東京都市大学大学院工学研究科 建築学専攻修士課程修了 (濱本研)
造研設計 入社

[テーマ] 構造設計の仕事について

3 時限 (16:00~17:20)

大成建設 杉山 雄亮氏 (H21卒)
2005 武蔵工業大学建築学科卒 (濱本研)
2007 武蔵工業大学大学院工学研究科 建築学専攻修士課程修了 (濱本研)
大成建設 設計部 入社
2007 大成建設 関西支店 転勤
2011 大成建設 本社設計本部 勤務
2016- 大成建設 本社設計本部 勤務

[テーマ] ゼネコン設計部の仕事 (構造設計こんなことをしています)

4 時限 (17:30~18:10)

エンジニアリングの日 討論会 『建築技術と構造の意義と展望』
左記3名による討論会
司会：相原 俊弘 (S40卒)

社会人12年目となり、我々の学生時代に研究対象とされていた事が次々と事業化され、あちこちで実践されている。既存ストック活用、建築の民主化、シェアリングエコノミーなどなど。多様化する社会の中で建築の普遍的なチカラを信じつつ、軽やかに、着実にその職能を活かす時代になってきたのだらうと思う。昨年に引き続き、学部生を対象にした特別講義のプログラムを組むにあたり、後輩達へのメッセージは、「建築は楽しい！」ということ。「楽しさ！」をどこで感じるかは人それぞれ。そこでできる限り、様々なアプローチから実務に取り組み卒業生に声かけをし、興味のアタネにつながることを目指した。

BIMの日：建築を取り巻くツールは日々変化をしている。学生たちは3者の取り組みからBIMに対する理解を含め、その可能性や社会的役割、自身の設計で選択するポイントを習得できたのではないかと。国際の日：インターネット上で国境を超えるのは容易くなっている。が、実務者としての経験談を直接聞く機会は少ない。今回は、スイス、デンマークで活躍する3方に登壇いただく。インテリア、住宅の仕事からまちづくりへ。単体の建築のみならず、より社会を意識したプロジェクト内容が学生達に良い刺激となった。

環境の日：毎年のように想定外の異常気象が発生し、温暖化の影響が無視できない状況となっている。建築分野から解決できることもまた、多い。まず、自分の住んでいる部屋の温熱環境を意識することから、はじめよう！というメッセージを込めた。建築キャリアデザインの日：建築の実務は楽しいことばかりでは、決してない。何にやりがいを感じ、何を目指し、どう継続して行くのか。答えはないが、模索中の3方に登壇いただいた。エンジニアリングの日：建築生産計画、構造に関わるエンジニアの3方に登壇いただく。学生達には想像しがたい、実務内容を丁寧に説明いただいた。この講義からエンジニアを目指す人が出てくれると嬉しい。

最後にご尽力ご協力いただいた 卒業生講師の皆様、特別委員会メンバーの皆様へ感謝申し上げます。来年で降も引き続き、卒業生から学生へ「建築の楽しさ！」を伝える講義の場でありたいと思います。ご協力いただける卒業生の皆様、是非、お声かけください。

nakata.architects@gmail.com (記：中田理恵)



勝又英明教授より「特別講師、委嘱状授与 1日目の4時限目「BIMの日」討論会 小室大輔氏による人生の示唆に富んだ白熱の講義 エコハウスワークショップ 最終日の懇親会

8月5日(月) BIMの日

●1時限「建築からの学び」

十河彰・麻美氏 (H16卒) SOGO建築設計

1時限目は十河彰氏・麻美氏の担当であったが、都合により彰氏お一人で担当された。十河氏が主宰の設計事務所ではBIMを使っている。その理由は図面の生産性を上げて少しでも多くデザインの時間を確保することにある。一つの図面を複数人で作業する際に使うオリジナルLINEスタンプなどの工夫も紹介された。建築は企画・設計・施工・維持管理・改修・解体に至るライフサイクルの中で、たくさんの関係者が存在している。建築はイニシャルのアイデアがその良し悪しを決めてしまうというのではなく、十河氏は設計のアイデアについて関係者の意見を聞きながら少しずつ良くなっていくことが、建築の質にとって重要と考えている。実際のプロジェクトでは施工者をはじめ関係者に忌憚のない意見を述べてもらっている。十河氏は、本学卒業後、東京藝術大学大学院を経てフルブライト奨学金を得てUCLA大学院に留学された。留学先での課題や修士設計を通じてコンピュータを学んだこと、伊東豊雄氏のサーペンタインギャラリーパビリオンをパラメトリック分析する課題に取り組んだことなどが紹介された。帰国後は新居千秋氏の事務所である新浜市秋葉区文化会館を担当された。本物件では複雑な「ねじれた壁」の形態や施工方法を説明するのにあらゆる3Dモデルを作成して関係者とコミュニケーションを図った。本物件は「CRAFTSMAN SHIPの衰退とDIGITAL TECHNOLOGYの進化の交差点」で、前例が無く今後も再現不可能ではと考えていた。これからは、職人の高齢化、熟練工不足をデジタル技術でカバーすることが必要と考えている。最後に独立後の商業施設、マンションのリノベーション、コーヒーショップ、グループホームが紹介された。その中で各物件における発注者・構造設計者・施工者等への説明、風のシミュレーション等へのBIMの活用事例が説明された。学生には、やや高度な内容であったが、BIMへの関心が高められたように思われる。(記：藤井研一)

●2時限「デジタルツールとの付き合い方」

浪川 稜馬氏 (H27卒) 安井建築設計事務所

最初に浪川氏が入社後2年半で担当した隈研吾事務所、丹青社と共同で設計した博物館、KWHGアーキテクトや島田陽氏、慶應の水野教授に加え若手グループのツバメアーキテクトなどと組んで設計を行った芸術大学のプロポーザル、安井建築設計事務所単独で参加した歴史文化施設のプロポーザルが紹介された。続いて現在担当している市庁舎、民間オフィスビルの紹介があった。次に会社紹介として創立95年の歴史あり、日本で最も早くBIMを取り入れ会社におけるBIMの確立や発展にも貢献していること、社内組織、代表作品が紹介された。BIMは「構造設計や設備設計情報のほか、コストや仕上げなど、付随する情報もすべて1つのデータで管理することができるモデル」であり、「構造設計や設備設計情報のほか、コストや仕上げなど、付随する情報もすべて1つのデータで管理することができるモデル」であることが紹介された。そしてBIMの構築方法及びBIMの長所 (1. パラメトリックモデルからの自動的な二次元図面の作成 2. 強化されたビジュアルイゼーション 3. クラッシュ・ディテクション (干渉チェック) 4. 製作の簡便化 5. シミュレーション能力 6. ファシリティー・マネージメントへ活用) が実際の図面を例に説明された。以上の長所は建築家、クライアント、施工者共通のメリットである。同氏は、我々次世代を担う建築家にはBIMだからこそできるデザイン、BIMがなければ発想しえなかったデザインを追求し確立する責務があると感じている。BIMやその他のものは、道具でミスや手間を減らし効率を高めるものである。ただ、効率性を高めることは創造性と共にあり、それを創造性につなげられるかは人それぞれであると考えている。最後に修士設計の集合住宅の設計にBIMを活用していたらどんな展開となったかが説明された。学生は、1限に続きBIMの効用への理解が深まると共に、組織設計事務所の仕事を知ることができた。(記：藤井研一)

## ●3時限「建築/建設 × ICTの実例と可能性」

## 中村 泰貴

氏（H15卒）
ログログ

まず冒頭に、学生時代に得た興味から現在の仕事に繋がっていると語った。

CADが浸透し始めた学生当時からPCやITなどデジタルに纏わる分野に興味があった中村氏。自らの設計課題では、パースやプレゼンテーションにCGを使うなど最新のデジタル技術を用いていた。既に自分を表現するための一つのツールであることを察知していたようである。大学・大学院では手塚研究室で学んだ後、アトリエ天工人に入社。その後、アーキビジョン広谷スタジオに場を移した。社会人になると、実務経験等から建築労働生産性が低いということに気づいたという。労働生産性を高めることもでき、自分が社会に貢献できる場所はどこなのか。模索している中、現在動めているLuminova Japanの存在に気づき、すぐさま転職した。

Luminova Japanの会社コンセプトは、『情報の共有化・可視化・資産化』である。3次元コンテンツや可視化システム開発事業を行い、建築/建設分野だけではなく、様々な産業分野へ貢献している企業である。

BIMという言葉が日本で浸透する前から、特定の場所を切り取ったPhotoshopで加工するようなそれぞれ特定の場所しか表現できないパースのようなものではなく、計画全体をCG化することによって状況に応じてデータを可視化・共有し、計画後もそのデータを随時できるようにサービスを行ってきた。まさにBIMという概念の目指す情報の共有化・可視化といったところだ。

BIMに関連するプラットフォームサービス「Arch-LOG」（建築資材などの総合検索サイト）も情報の共有化・可視化・資産化の一つのかたちである。建築業界は他業界と比較すると、利益率や効率性の観点から見ても非常に生産性が低く、またICT化が随分遅れており、農耕・狩猟業に続いてワースト2位。建築資材等をデジタル化し、「Arch-LOG」プラットフォームで提供することによって、設計者や施工者、施主といった様々な視点から同一の情報を把握することができ、さらには、写真品質の視覚化が誰もが簡単にリアルタイムで行える。それが建築業界全体のICT化につながり、労働生産性の向上、効率化にもつながる。まだまだ乗り越えるべきモノゴトはたくさんあるが、やりがいを感じるという。

一つの興味から仕事につなげた中村氏。自らの行動が次につながると講義を通じて発信した。また、情報のデジタル化が如何に必要とされており、今後重要となるかを訴えた。（記：米澤昭）

## ●4時限「建築の付加価値をつくる」

## 討論会

討論会は、司会者がテーマを示し、それについて各講師が答える形で進められた。

最初のテーマ：『これまでの建築の良さ（価値）は、どのようにつくられていたのか』に対しては、「建築は、一部の人の物から公共の物へという考えに移行している。その為にもコミュニケーションを上手く取り、わかりやすく伝えることが重要である。」という考えが三者の共通であった。

次のテーマ：『デジタルが発展してきた近年、これまでの作り方とどう違うのか』では、「建築のデジタル化を今後どのように受け止め取り込んで行くのがよいか」と言う司会者からの問いかけに、「打ち合わせ等においてVR（バーチャル・リアリティ）により皆で3次元空間を共有する」（中村氏）。「AIが発展し、自分では思いつかないことをサポート・アドバイスしてくれる存在になって欲しい」（浪川氏）。「建築を造る過程においてはそれほど変わらないのではないか。材質や空間構成などの決定を、建築家自身で行うことを忘れてはいけない」（十河氏）。「自分が造りたい物、社会に貢献したいものを納得させるためにデジタルツールを上手く使わないと意味がない」（濱田氏）というそれぞれの意見であった。

最後のテーマ：『建築の付加価値をどう付けたら社会に貢献できるか』に対しては、「デジタルにより自分への付加価値を積み重ねていくこと」、「要求された事項への対応手段として複数のデジタルソフ

トを駆使すること」、「デジタルソフトを使いこなす最大限の努力を行うこと」が三者から出された意見であった。

学生にとっては、今回の講義を通じ、デジタルツールが建築を学ぶ上で便利な必須アイテムであることは十分理解できたはずである。また、BIMの基礎内容（言葉、用途など）を理解することができれば、更に将来へとつながるだろう。（記：露木博視）

### 8月6日(火) 国際の日

### ●1時限「スイスでの経験から」

## 根市 拓

氏（H26卒）
石村大輔 + 根市拓

学部2年（2011年）の時に、根市氏はスイス人建築家ヴァレリオ・オルジャティの展覧会を見て衝撃を感じた。この展覧会は当時建築界を賑わしていたスイス建築界の中で、次世代を担う建築家としてオルジャッティが取り上げられ世界を巡回した意欲的な展覧会をおこなっていた。特に「考えたりしたことをいかに見せるか」とオルジャッティが語るように展示の仕方も特徴的なものだった。その時の衝撃を持ち続け、大学卒業と同時にそのスイスへ行くことを決意した。

スイスでは文化の壁を感じた。日本のように話さなくても空気感で伝わるということではなく、コミュニケーションを取って分かり合えない事を乗り越えていく事があらゆることで大事になることを痛感した。それはスイスの学校の課題のエスキスやプレゼンでも感じたようだ。ゴッホの町並みを描いた絵から、それを再構成して建築群を設計する課題をおこなった。人々が建築から縁側のように「まち」にあふれでて活気を作っているように感じた根市氏は、その様子を注意深く読み取り設計に取り組んだ。そのアイデアを講師たちと共有するのにかなり時間をかけてもらったようだ。

まちと建築の関わりでも特異な経験をした。スイスでインテリアのプロジェクトをしていた時に、インテリアの色の使い方に苦慮していた。その時、そのまちの風景が素敵に描かれた有名な絵本を発見。その絵本に使われているまちの色を参考にインテリアの配色を決めていった。インテリアを考えることでも常にまちとの関係を模索する過程にスイスらしさを感じた。

その後日本に2017年に戻り独立し、住宅の依頼をうけた。その敷地周辺環境にあったのは「まちと関係をもたない建築たち」であった。改めて日本のまちなみにショックを受けたのだが、その中でも「まちと関係ないことを関係あるように考える」という逆転の発想で住宅を作り上げるに至る。まちや文化と関係性をもつ建築の重要性をスイスでの経験から強く感じ取ったようである。（記：栗田祥弘）

### ●2時限「きっかけをつくる」

## 清水 亨

氏（H17卒）
ホンヤ・シェーファー・アーキテツク建築都市設計

ゴルフ、スキー、サーフィン、DJ、グラフィックデザイン、カメラ、・・・、建築。

清水亨が小さい頃からも含めてやってきたもので、全てが趣味で全てに全力で取り組んできた。建築も他の趣味と並列に置かれているため「趣味感覚の建築」と言い、良い意味で肩の力が抜けている。

海外には大学入学前から接する機会があったのだが、海外と建築が強く交わったのは大学院時代であった。当時スイスのクールに新しい学校ができる事を知り1年間の留学をすることになった。その場所がスキーに適した山のある場所と分かることで大きく背中を押された形になったのは言うまでもない。建築だけを目的に留学するとつらくなる時期が必ずくると考えた清水は、自分のライフスタイルに合う場所を探し、建築的にだけでなく人間的にも成長できる場所を選んだ。

短期留学時にインターンしていた会社に大学院修了後に戻り、現在14年滞在している。仕事の仕方としても「良い遊びをしながら、仕事につなげていけないか」と考える。スキーが好きなクライアントの仕事は、スキーが好きなデザイナーがデザインしたほうが良いだろう。何がどうつながるかは分からないから、浅く広くであっても趣味というものを大切にするし、そこでの出会いということも大切にしている。8年半滞在したクールからチューリッヒに移籍したのもそのよう

なつながりからである。

聴講している学生のみなさんにアドバイスするならば、「様々なことに興味を持ってみたい欲しい」ということだ。いろいろな場所に行ってみたり、新しい体験をしてみたりする中から自分にあった方向性が見えてくるだろう。興味を持つと積極性も増していくし、新しい所へ飛び込むときの恐怖も和らぐかもしれない。そのような「きっかけをつくる」ことで世界はもっと身近になっていくでしょう。

（記：栗田祥弘）

### ●3時限「地球に住むような感じで」

## 加藤 比呂史

氏（H16卒）
合同会社 矩

2004-2010北海出身の藤本壮介建築設計事務所を経て2010日建設計に入社・退社してデンマークへ渡り時速5Kmのコペンハーゲンで自身の建築を開始した加藤氏。予測がつかない曲がっている道が好きだと、予測のつかない知らない世界に飛び込み、ご自身の価値観をエコは『愛』だと表明して設計活動を続けられている。武蔵工業大学での実学と、岩崎研での薫陶を踏まえ、身体的、感覚的、社会的な側面の根っこに立ち返り、新しく空間と人間の関係を再構築して物創りをされている藤木壮介で実務経験を積み、デンマークへと渡り、世界で自分を試しながら建築の幅を広げて来た。

HELLO MUSAKO!で始まった講演は、曲がっている道の先にある予測できない空間の可能性を追求し続けてきた軌跡をまとめたもの。350mmの角材で組み上げた球磨村森林組合final wooden house の構成は、日本がかつて培ってきた伝統・文化・環境を見つめなおし、新たな価値を加えて使い続けられるモノづくりのプロログと受け止めた。デンマークの都市環境、COBE事務所での人との出会い、彫刻美術館のウインターガーデンで過ごす日々の中から、パブリックスペースとは何かを考え、新たな価値観を持たせて再構築していく手法が生まれた。パブリックスペースが街との調和を保ちながらサスティナブルー継続性一を持ち、エネルギーをかけた価値を共有できているのがよい街ではないか。自身の設計への姿勢がうかがえる。

環境の持つポテンシャルを生かし、新たな価値観を加え再構成していく作品づくりは、デンマークでのチャンス拾い続ける日々、様々な価値観を持った多国籍の人々との触れ合いの中で培われたものと推察する。

京都府芸術センター（元明倫小学校）でのプロジェクトは、再構成（デザイン）によってパブリックな空間が人々に新たな発見を与えることができるという可能性を実証したのも。

今回の講演の一週間前に帰国し住み始めた佐野市。クリケットチャレンジの計画説明、今何を佐野市で始めたのが紹介されなかったのは心残りであった。

海外では人との出会い、多様な価値観に遭遇し、相互に認めながらのモノづくりを進めていく環境がそこにはある。これからの建築を目指していく上での考え方、生き方のヒントを教えてくれた講義であった。東京都市大学から多くの学生が世界に目を向け、日本の文化・環境を見直し、日々の喜びを感じられるようなモノづくりを目指す建築家になってほしいとのメッセージが伝わってきた。

今後の作品作りに期待し、経過報告を兼ねて再び母校での講義をお願いしたい。（記・新居仁）

### ●4時限「世界を意識した時」

## 討論会

司会：栗田祥弘（H10卒）

昨年に引き続き「国際の日」として『世界を意識した時』をテーマに、海外で活躍されてきた講師の方々に、海外での建築活動の取り組み姿勢、国境のない仕事環境など、受講者との会話も含めながらの討論会が行われた。

司会の栗田さん（2年生後期の設計担当講師）も海外留学、海外事務所（オランダ）で働いた経験を持つ。これからの時代は国境のない仕事環境が増え、世界との距離感が無くなっていくのではないかとその問いかけで討論が始まった。

① 英語（語学力）は必須か?伝えたいものをどうすればよいのか（栗田）海外で働いていく中での距離感ほ、言語の壁を越えた瞬間透明感が広がっていく（根市）、多国籍の人がいるのが当たり前前の環境の中で英

語ができる人は少ない（できるのに越したことはないが）中で模型や、スケッチといった伝達手段がある（加藤）

自分の居場所を探し信頼を深めればよい。語学は後からついてくる(清水)
仕事を通して相互に刺激し合い、理解を深めることが可能(全員)

② 自分の居場所を掴むには何が必要か？

場の雰囲気や溶け込むユーモアが必要。トモダチを作ることも大切。足りないのを認めオープンに置かれた環境・仕事・人に向き合えば、海外という意識が消え仕事の間（自分の居場所）がある。（根市、清水、加藤）日本にいるのと変わらない。周りにオランダ人がいるだけ(栗田)、共有できる部分と、分かり合えないところがある中で仕事をするのが面白い。（全員）

③ 海外での建築、日本での建築、街の在り方

壁厚の違いなど基本知識の違い、部屋の広さなどスケール感が全く違う(清水)、

いま日本で人口減少が問題になっている。40万人いた都市が10万人に。逆転の発想で4倍の面積に住めると考えればよい。街の魅力を再考し新たな街を構成する。（記：加藤比呂史）

### 8月7日(水) 環境の日

### ●1時限「資源と環流-保存と流れの視点から見えること」

## 小室 大輔

氏（H26卒）
エネクスレイン

小室氏は昨年の「国際の日」に続いての登場であった。まず、若者の生き方について「みんなは人間という資源である等」の話があった。次いで、小室氏が注目している建築としてオランダのフェロン市庁舎（設計：クライエファンガー設計期間2009-2011年、建設期間2012-2016年）の紹介があった。この建物は40年後の解体と建材の再利用を考慮した世界初の建築であり、自然換気、壁面緑化による空気浄化を取り入れている。また、原材料の新たな消費を抑制することを目的としている。そのため、市役所は将来の建築資材であるとの考え方のもと家具を10年後に家具メーカーが価格の18%で買い取る契約としている。さらに人体に害のない建材を使用するC2C（cradle to cradle）認証の材料を使用している。ここで小室氏の「建築は資源⇒再利用は流れ」という考えが披露された。本件では、建築費と維持費の5%以内とするコンセプトとなっている。建築工費に対し維持管理費＋人件費は大きな金額になることが小室氏の推計を基に説明された。本件では、駐車場は明るさが必要なのであって照明器具という資産を持つことが目的ではないという考え方で、電力会社に照度確保を依頼してリースとしている。このように目的は資産所有ではなく、その達成の方法は所有以外にあることが紹介された。続いて小室氏の各分野についての考えが述べられた。土地の使い方にはとどまるものと流れ行くものがあること、資源は拡散能力の高い自然原料であり拡散させるための環境が必要で保存⇒流れ⇒保存の繰り返しであること、環境には保存可能なものと保存不可能のものがあること、設備の機能を持った意匠設計をしていきたいと考えていること、地球温暖化については懐疑的であること等。最後に未来に向けて資源と流れのデザイン、意匠設計と設備設計の融合、環境と交感する手法の話があった。学生には、普段の授業では聞けない先進的で刺激的な講義であった。（記：藤井研一）

### ●2時限「ーエコハウスD I Y 温熱環境さほんのきー」ワークショップ

## 中田 理恵

氏（H18卒）
中田製作所

中田理恵氏は、当大学建築学科(手塚研究室)を卒業後、首都大学東京にて修士課程を修了され、2008年に日建設計に入社された。中田氏の講義は、まず自己紹介からスタートし、日建設計に勤務されていた際に担当した建築の紹介、ご自身のお住まいを仲間と共にDIYされた様子などが紹介された。

現在は、御主人(本学OB、中田氏と同級生！?)と立ち上げた中田製作所における活動紹介がなされ、「ただの建築はつくりたくない、お客さんとの関係をつくりたい」というフレーズが印象的だった。

講義は住まいの熱環境、とりわけ断熱の重要性について、ご自身の祖母

の住宅を事例(「おばあちゃんち、暑い寒い問題」)として展開された。まず断熱の重要性について、日本の断熱事情(5軒に2軒は無断熱)であること、今後はエコハウスが主流になると考えられるが日本においては事例がすくないことなどが紹介された。また、講義終盤では、「暑い寒い問題」を解決する方法論について述べられ、最後はご自身が関わられた団地やおばあちゃんちの断熱DIYを具体例として示された。中田氏は講義のなかで、素材によって熱の伝わりやすさが異なることを理解するため椅子の木部とスチール部を交互に触ってもらったり、夏至と冬至の太陽の動きを模擬した体操を行ってもらったりと、講義を飽きさせずに、かつ理解を深める工夫が見られた。

建築学科の学生にとっては断熱材が果たす役割を知ることとなり、聴講した学生には良い刺激になったと思われる。中田様、大変ありがとうございました。(記：小笠原岳)

### ●3時限「－自分の住んでいる部屋を快適にしよう！－」

## 中田 理恵

氏（H18卒）中田製作所

2時限目を担当された中田理恵氏を中心に、1時限目を担当された小室氏がサポーターとして加わり、「自分の住んでいる部屋を快適にしよう!」とのタイトルでワークショップが実施された。まず、エコハウスDIY の手順を起承転結になぞらえて紹介された。その手順は、起：①問題を発見する、承：②原因を分析する、転：③解決方法の創造・変換、結：④成果を確かめる、というものである。ワークショップは、自分の部屋について、観察・分析・解決アイデア出しを個人で行う。その後、5人で1グループ(合計7グループ)を形成し、グループ内全員に対して、自分の部屋の状況や解決方法を発表する。その後、各グループで代表者1名を選定し、全体発表を行い、中田氏や小室氏がコメントする形で進められた。ここで全体に向けて発表された代表者の自室について、いくつか紹介する。

・一人暮らし：2階に居住。ロフト部分が暑く、開口部をダンボールでふさいでいる。→小室氏より、ロフトの開口部について内側から対策をするのではなく、外側で対策できると、効果的とのコメント。
・実家住まい：2階の北側が自室、空調なし。暑さ寒さが厳しい。→中田氏から、2階屋根裏にグラスウールを敷設すれば効果が期待できるとのコメント。
・実家住まい：吹き抜け部分を改良し、自室に。やはりロフトにおいて夏期の環境が悪い。→中田氏から、就寝場所を現在のロフトから、ロフト下部の物置スペースに替えてみては、との提案。

全体的には、夏期の環境悪化に対する不満が多く、特にロフトの暑さ対策が多く議論されていたように思う。やはり四季のある日本においては、それぞれの季節を快適に過ごすための工夫を大切にすべきだと改めて感じたワークショップであった。担当された中田様、小室様、ありがとうございました。(記：小笠原岳)

### ●4時限「建築環境の過去・現在・未来」

## 討論会

司会：小笠原岳（H11卒）

討論会は小室氏と中田氏に登壇いただき、司会の小笠原氏の質問で進められた。

質問A：職業を聞かれたら何と答えますか？

質問B：大学2年生の時何をしてましたか？

中田氏：都市計画研究会で建築旅のツアーコンをした。

小室氏は：建築が嫌になり面白く無くなったが、その反動なのか大学2年生で、4年生に上げれる単位を取得した。2人ともアルバイトを経験。

質問C：どんなきっかけで環境に進みましたか？

中田氏：学部では意匠系の手塚研に所属していた。社会人になって実務を通じて環境に興味を抱いた。研究室にとらわれないで興味を抱いたことで得意分野を作ることが大切である。東日本大震災の時、会社の同僚と共に、仮設住宅をホームセンターで買える材料で出来る温熱環境を整える方法の冊子を作成した。意匠設計の経験が役立ったと思う。

小室氏：宿谷先生の授業で衝撃を受けた。最初の授業で地球の絵を描

いたあと、建築にとって「光や風の流れを捉えることも重要だ。」と言われた。意匠デザインに取組む自分が格好良いと感じている同期の気持ちも理解できたが、その一方で、それに対する抵抗を感じることも多かった。その後、徐々に流れを捉えるという視点から建築を考えることも面白いのではと思い始めた結果、建築環境デザインへの関心が高まった。

質問D：小室さんがドイツに渡航したきっかけとご自身が思い描いている建築とは？

小室氏：卒業後設計事務所の設備設計で6年実務経験をした。機械設備に頼らない先駆的な建築がドイツには多く、それを知りたかったことが渡航の理由である。エネルギーは必要だが、大量に消費しなくても快適な環境を実現することは可能だと考える。例えば、寒い冬に窓辺の陽だまりのような暖かさを実現するためには、必ずしもエアコンが必要なわけではない。暗い空間を明るくするためには、明るさがあればよいのであって、照明器具が欲しいわけではない。物事の本質を追求することが大事である。

質問E：学生へのメッセージ

中田氏：まだまだ男性社会で、女性がキャリアを積む上で、悔しい経験をしたが、一生懸命取り組んで、何か芯となるものを持つことが重要である。子育てをしながら、続けられる一生の仕事だと思っている。学生時代に興味の種を探し育てて、10年後20年後に開花させて欲しい。外国で起きている事でも、自分の問題とし、自分の周りから始め、継続していくことが重要である。

小室氏：いつの間にか、このような環境になったとの思いがある。若者が打ち拉がれているという情報が多いので、この機会に元気づけにきた。「みんなが資源」。可能性はたくさんある。あまり卑下して考えない方が良好い。将来、一緒に仕事ができたら嬉しい。

質問Aに対して中田氏は、「建築屋さん」。小室氏は、「鳥」「人生の旅人」とはぐらかすが、2人とも従来の建築家像に収まりたくないように思われる。

3時限目のワークショップで学生がいかに劣悪な温熱環境に住んでいたかが明らかになった。二人の講師を手本に全ての建築家が温熱環境に関心を持ち、劣悪な環境の改善を目指すべきだと思った。熱気に包まれた討論会で、学生に役立つ質問と回答であった。例年に比べ余りにも少ない聴講者で、残念であった。運営の一員として反省している。(記：丹羽謙治)

### 8月8日(木) 建築キャリアデザインの日

#### ●1時限「キャリアデザイン　－これからを考える－」

## 藤井 研一

氏（S57卒）東京都市大学 常勤講師

講師は、企業に建築設備技術者として勤務し、教育講師として建築設備を教えている。企業では採用に関与しキャリア開発に興味を持った。そしてキャリアコンサルタントの資格を取得し本講義を担当することとなった。

まず、キャリアデザインとは自分の職業生活を中心に人生を自らの手で主体的に構想し、展望することとの説明があった。次に「考える」＝「比較すること」であり本講義では「比較材料」を提供するとの話があった。大学で行われている一般的なキャリアデザインの進め方は「人生設計」、「自己理解」、「仕事理解」、「職場理解」であり、本講義ではそれぞれのヒントが次のように示された。
【人生設計のヒント】 平均寿命、人口減少、定年延長等のデータが示された。次いでライフキャリア・レインボー⇒キャリアは一生発展し続けると言う概念のもと、役割（ライフロール、子、学ぶ人、余暇を楽しむ人、市民、働く人、家庭人、配偶者、親）、場面（ライフステージ）の組み合わせであるという理論等が紹介された。さらにキャリアアンカー⇒個人がキャリアを選択して行く上で絶対に譲れない軸となる価値観や欲求、能力等の人生の礎→「どのように働きたいか」ということを考える必要がある。そして学士力（文科省）、人生100年時代の社会人基礎力（前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力）（経産省）等が説明された。また、来年度から施行の一級建築士試験制度の変更も紹介された。
【自己理解のヒント】 マズローの欲求5段階説、ジョハリの窓等が紹介された。
【仕事理解、職場理解のヒント】 イソップ童話の3人のレンガ職人を通じて仕事との関わりを考

える話があった。建築を学ぶ4年制大学は152、建設業許可を受けた企業は約47万、職業の数は約17,200あり、就職はこの中からの選択である。またホランドの職業選択理論RIASEC（人間の行動は個人のパーソナリティと環境との相互作用の産物である）が紹介され理論に基づく自己分析ワークが行われた。就活に係る状況は毎年変化している。その為に東京都市大学の財産（大学キャリア支援センター、就活支援企業、如学会・校友会の進路支援プログラム等）を上手に使うて「最新情報」を集め、自律的に考えて、タイミングを逃さずに行動しようとする学生にエールを送った。(記：青柳浩男)

### ●2時限「縁がつなぐものづくり」

## 竹下 加奈子

氏（H17卒）大成ユーレック

新卒で大手ディベロッパーがクライアントの分譲マンション等を設計する会社に就職した竹下さん。ひとりの担当として、仕事を任せてもらえ、やりがいを感じつつも、自分自身では住めないような住宅規模、住まい手の声を聞くことのない環境で、現実味をあまり感じられなかったという。入社5年目。体調を崩し、一旦、建築を離れてみようと思い、友人から誘われ、2年間淡路島で島暮らしをした。淡路島では、島で働きたい人と働き手を探している人のマッチングや淡路島ブランドの商品開発等を行った。島のお母さん達が手作りして、使っているホウキから、着想を得てできた、「育てるほうき」http://www.morinoki-farm.com/broom/や淡路島の伝統産業に着目し、瓦工場に通いつめ、開発した「まちまち瓦」https://www.stream-nomizu.jp/wp/2017/08/02/post-3376/ など。（瓦職人になりかけたという。笑）そういった仕事の中で、建築実務で養ってきた編集力や、コンセプトメイキング力が役だったという。また、それまで、丁寧に向きあってこれなかった、自分たちのものづくりを伝える、話し方、文章力を養えた。美しいビジュアルと丁寧な商品説明が印象的なブラダクツの数々に、淡路島の空気感までもが我々にも伝わった。期間限定の島暮らし後、前職からの縁で建築分野に戻った竹下さん。ちょっと寄り道したことで、人の縁をより、大切に感じられたようである。学生達にとっては、建築の職能が違った形でも役にたつ事が感じられたと思う。既成概念にとらわれず、建築分野の可能性を大いに広げていって欲しい。(記：中田理恵)

### ●3時限「むずかしそうなことほど面白い」

## 浅井 百合

氏（H19卒）浅井アーキテクト

「デザインによって人生をいかに“豊か”にできるか」をテーマにご主人と設計事務所を主宰されている浅井さん。パネルを組み合わせ、3Dプリンターでジョイントパーツを切り出した小屋のプロジェクトhttp://yadokari.net/yadokari-hut/22344/ では、施工のプロでなくても建てられる小屋を製作。フローティングパネル工法と名付けられ、透明な樹脂パーツにより、セルフビルドで組み立てたという。パーツを考えるにあたり、スケッチやプレストの様子も伝えられ、つくる中での思考錯誤と熱量が垣間見えた。講義中盤には、事務所の様子を詳細にレポートして頂き、（デスク周りの写真や、本棚の写真まで）学生達には設計者の仕事がより、イメージできたと思う。お子さまのペビーベットが運びこまれた事務所風景は何とも微笑ましくあった。設計事務所ながら、働き方改革を進めており、18時定時とのこと。定時後は、自由な時間として、子どもとの時間を楽しんでいるという。必要があれば、プレストをしたり、スタッフが勉強時間にあてたりすることもらせている。

一昔前のブラックな事務所は減り、個人事務所程、こういった動きが進むと思われ、喜ばしい。三浦工務店新社屋のプロジェクトでは、木材を格子状に組み合わせることによって面としての剛性を持たせた外装を提案。設計段階でアルゴリズムエディター（グラスホッパー）を使用し、居室は密に、動線空間は疎になるようアルゴリズムを作っている。まるでジグソーパズルのような複雑な架構であったが、職人さん達と共に楽しんで実現したという。浅井さんの探究心やこだわりが写真や言葉から伝わり、設計の仕事面白がっている様子がよく伝わってきた。学生達にも良い刺激になったことだと思う。(記：中田理恵)

### ●4時限『キャリアデザインの多様性』

## 討論会

司会：藤井研一氏（S57卒）

討論会は藤井氏、竹下氏、浅井氏の講師3名と司会の中田氏にご登壇頂く予定であったが、中田氏が討論会直前の施主からの電話で、急遽司会を藤井氏が務めた。事前に講師に対して質問が渡されており、それに基づいて議論が進められた。

■自分の中で何を基準に現在の職業（職場）を選んだのか？

竹下氏：自分自身が自分らしく働くことができる会社を選んだ。

浅井氏：大きい建築も設計できつつ近所の人の相談にのれる様な建築家になりたかった。

中田氏：大きな規模の設計をやりたかった。

藤井：建築を作る上で第三者的立場が重要と思って設計事務所に勤めた。

■社会人になってからこれまで一番大変だったことは？

竹下氏：就職して5年目くらいに、理想との実務とのギャップに悩み、機械的に仕事をこなし、人間らしい規則正しい生活が送れなかったこと。今考えると、その辛かった日々は意外と忘れてしまっているが。

浅井氏：独立した時、仕事を獲得するのに苦労した。現在、事務所は定時6時、残業は8時までとしている。仕事量を施主に伝え、プロセスを共有してもらうように努めている。

中田氏：社会人2-3年目、厳しい上司に育てられた。今は感謝している。

藤井氏がメンタルをやられる人が多く、自分で溜めないで吐き出すことが大事と付け加えた。

藤井氏：転職する際、地方の工場の設計監理を担当し、監理は常駐する話になっていた。結果として上司に引き継ぐことになり、迷惑を掛けてしまったのを心苦しく思っている。

■今後の自分のキャリアについて現時点で考えていることは？

（10年後、20年後、30年後どうなっていたい？）

竹下氏：さまざまな分野で活躍している同世代の人と一緒に仕事をしたい。若い人の支援もしてみたい。

浅井氏：現在3人体制。10年後は7人体制位を目指したい。もう少し公共的な仕事、コンベをとりたい。青山学院の原監督が以前「人が巢立ち、入替りながらチームに人格が残る。」というお話をされていたのを聞き、設計事務所でもそれを目指したい。

中田氏：社会人12年目。家具から住宅までやっている。学生時代の種を実現している。今後10年は、ハンディハウス方式で街づくりに関わりたい。10年、20年上の先輩を目標に定めるのもの一つ方法である。研究室に縛られず気になったことから深く掘り下げ、自信に変える。藤井氏：教育講師は有期契約である。その後は、キャリアコンサルタントとして展開したい。設備に携わる人が少なく、この方面に進む学生を増やしたい。企業での採用経験から「面接では破綻ないストーリーを作ることが大切である。」という助言もあった。

キャリアデザインの講義は今年が初めてで、他学科では授業として多くの時間が割かれている。残念ながら建築学科は遅れをとっている。「キャリアデザイン」は学生にとってのみならず、我々卒業生にも必要であり重要であると思った。特に、受講生の3割の3年生にとって有意義な講義だった。(記：丹羽謙治)

### 8月9日(金) エンジニアリングの日

#### ●1時限「建築生産計画の現状と課題」

## 徳田 浩

氏（S52卒）元・清水建設

清水建設を退職された現在、美大の学生であることを告げられた講師。そして、生産技術とはクリエイティブ・デザインであると・・・さあ、聞いている学生はともかく、私は一気に引き付けられてしまった。そして、「建築はこれからどのように変化していくだろうか。」と問いかける。

かつては、安くて早くていいモノを求め。モダニズムからポストモダン、そして洗練された建築へ。今は環境の時代で、環境の論理で建物の意匠が決まってきている！人間が情報空間と一体化した世界はも

うすぐそこまで来ている！チーム・ラボがやっていることは、まさしく建築である！そして、設計図と施工の間を繋ぐ技術が生産技術であると・・・学生達、ついてきているか？

次に、講師が生産計画支援スタッフとして実際に携わってこられた仕事を通して、生産技術についてお話があった。

コクーンタワー、あの繭をイメージしてデザインされたという新宿のビルである。建物の中央部よりも足下の平面が小さいというだけで、バランスを欠いた難儀な建築であることが分かると思う。既存建物の地下構造物を最大限利用した工事、コアフレームとダイヤゴナルフレームの上部構造の構築方法には、様々なアイデアと検証がなされたことが理解できた。

清水建設京橋新本社ビルは、２２階建ての免震ビルである。構造計画と環境計画と意匠計画を複合的に考えて、最先端の環境型オフィスを実現している。外装パネル自体が構造体になっており、PCによる柱と梁で構成され、立て込み後グラウトが充填されて一体化する。

日本で超高層RC造は、現場の効率を上げるために、１００％PC化を目指して技術革新が行われてきた。しかし、ブルジュ・ハリファ（建設段階ではブルジュ・ドバイ）ポンプ車で８００mコンクリートを圧送し、全て現場打ちコンクリートで作っている。

日本のような型枠大工の技術は無いが、その代わり非常に優れた型枠メーカーが工事を支えているという。

その他にも、福島原発での覆い屋など、ご紹介したいお話はたくさんありました。文字制限があるのでここまで。設計初期の段階から、作り方を検討し、施工技術と一体となった計画・設計が行えること、生産技術がモノづくりに如何に大切であるか。学生達は感じたはずです。

（記：三好敏晴）

#### ●２時限「構造設計の仕事について」

## 曾根 卓也

氏（H26卒）造研設計

曾根さんは2017年から、本学OBの三好さんが代表を務める造研設計で構造設計の実務に携われている。小学校から高校まではサッカーに熱中していたそうである。本学に入学後、本学構造OBの三好さんのお話を聞いて三好さんに興味を持ち、三好さんが行っている構造設計という仕事に興味をもち、より専門性を高めるため大学院（濱本研究室）に進学し、その後造研設計に入社された。基本設計から実施設計、そして現場監理と建物の完成まで主担当者として一貫して携わることができており、三好さんのご指導を受けながら、様々な技術を習得すると共に、貴重な実務経験を積まれている。担当された小規模な不整形な建築の構造設計について、構造設計の実務の内容を基本設計から実施設計、そして現場監理と段階ごとにわかりやすく丁寧に説明された。具体的には、近隣との関係を考えながら、基礎の設計において近接する隣地との土留めに力が作用しないよう一部地盤改良を行ったことや意匠設計者と話し合いながらゾーンごとに耐力壁の配置や厚さを決定したことや意匠計画を配慮した結果、耐力壁の配置が片寄った部分においては、耐力壁への水平力伝達のため床スラブの検討を行う必要があることなどである。また実際に構造図通りに建物を作り上げるために、柱と梁の接合部における鉄筋の納まりの確認など現場段階での監理業務が重要であることを強調された。

曾根さんが勤務されている造研設計のようなアトリエ構造設計事務所では、大きな組織事務所に比べると、所員数が少なく、小規模プロジェクトが主体となるため、一人で様々な仕事を経験でき、早い段階で技術を取得することが可能であるとのことであった。講義の最後、上司にあたる三好さんが登壇され、プロジェクトの経緯をご説明いただいた。（記：宇田川貴章）

#### ●３時限「ゼネコン設計部の仕事（構造設計こんなことをしています）」

## 杉山 雄亮

なんと１８９cmの高身長、大成建設本社設計本部勤務の講師は、濱本研究室のOB！学生時代は二子玉川にあるデパートでアルバイトして、おばさま達にキヤーキヤー言われていたとか・・・なっとくの

顔立ち。構造設計との出会いは、本日司会を務める相原さんの事務所SDGでのアルバイト経験。そして、かなりぼろくそにダメだしされたのが、悔しくて、“一生の仕事にしてやろう！”と決心したそうです。

大成建設に勤務して、東池袋で30m×12mCF T柱のビルを経験、そして関西支店では1人で四苦八苦しながらの構造設計者としての道がスタートしたそうです。そして入社して１０年目の2016年、大きく成長した彼は、東京オリンピック・パラリンピックのメインスタジアムである新国立競技場のP Jに参加するため、本社設計本部に舞い戻ってきたようです。

ゼネコンとは何かから始まり、ゼネコン設計部の特徴、設計業務から現場監理業務に至るまで、細かく説明頂きました。学生達も真剣に聞き入っていました。

「実施設計はゼネコンに任せます。」という事例が割りと多いそうです。総合事務所が基本設計を行い、工期・コストのコントロールを含めて実施設計をゼネコンの設計部が担当するということです。もちろん確認申請対応もゼネコン設計部が担当する訳です。

基本設計における構造計画の楽しさを味わえず、設計工期のタイトで実施設計から担当するなんて・・・・・・力が付くわけです。

もちろん、基本設計から携わることもたくさんあるそうで、所沢駅舎の改修工事でその架構システムの説明は、学生達に構造計画のおもしろさが伝わったのではないかと期待しています。

その他にも、設計者として取り組んできた仕事、そこでの創意工夫・姿勢は魅力的でした。

「責任があるからこそ、面白い！P Jに係わる人、事、情報の整理・調整がとても大切。そして、自分で考え、悩み、生み出した案・ディテールが採用されたときは、とてもうれしい…」

今年は、リクルートにも力を入れているそうで、10月の進路支援ガイダンスにも出席予定です。彼に続く構造設計者が現れることに期待します。（記：三好敏晴）

#### ●４時限「建築技術と構造の意義と展望」

## 討論会

司会：相原俊弘（S40卒）

特別講義の最終日である、「エンジニアリングの日」の討論会は、司会を相原俊弘氏（エス・デー・ジー）と三好敏晴氏（造研設計）が担当し、徳田浩氏、曾根卓也氏、杉山雄亮氏に質問する形で進行了た。

（仕事の魅力など学生に伝えたいことは）

徳田氏：学生時代に当初は意匠設計に進むことを考えていたが、ノーマン・フォスターにより設計されたハイテク建築の一である香港上海銀行を見て、意匠デザイン以外の要素からも建物のデザインが決まることがあることに気づいた。そして建築生産計画の江口先生の研究室に進んだ。意匠設計以外にも建築設計に関連する様々なエンジニアリングの仕事があるが、いずれも一生をかけるに値する素晴らしい仕事である。そして最終的にどの分野でも大事なのはデザイン（感性）である。

曾根氏：建築家がいかに素晴らしいデザインをしても、それだけでは建物は実現することはできない。そのデザインに基づき、構造設計者が構造設計を建築家と協働して行うことで初めて素晴らしい建物を実現することができる。

杉山氏：学生の皆さんには、まず本日徳田氏がお話した建築生産計画の仕事や構造設計、設備設計など建築に関わる様々な仕事の内容を知ってもらいたい。そして自分の目指すべき仕事を定め、それに向かって真剣に勉学に取り組んでいてもらいたい。

最後に相原氏から、組織設計事務所（日建設計）の構造設計部に所属する私にも仕事の魅力についてご質問いただいた。私自身は、現在九州の天草市で地元産小規模断面の木造を使った屋根架構に取り組んでおり、木造はそれを隠さずそのまま見せることが多く、意匠的なデザイン要素もあるため、接合部の設計などが非常に興味深く、楽しんで仕事に取り組んでいることを学生の皆さんにお伝えした。

2年生と3年生の学生が聴講していたが、まだ大部分の学生は自分の希望する分野をはっきりとは決めていないようであった。今回の特別講義が、今後各自の目標を定めるにあたり、その一助になるのではないかと感じた。

（記：宇田川貴章）

## 主催：東京都市大学建築学科同窓会・如学会 第14回「建築100人展2019・浅草展」 共催：東京都市大学建築学科 特別企画1〈手塚貴晴・由比展〉、特別企画2〈多様な相と多彩な眼〉

## 新企画で「隅田公園リバーサイドギャラリー」にて開催

**従来の展示+新テーマ<アンビルド-UNBUILD>展示。今回より多彩な審査員団による数々のユニークな賞が授与されます**

開催スケジュール：2020年3月7日〔土〕－3月15日〔日〕 会場：隅田公園リバーサイドギャラリー（浅草）

3/4〔水〕-6〔金〕	3/7〔土〕	8〔日〕	9〔月〕	10〔火〕	11〔水〕	12〔木〕	13〔金〕	14〔土〕	15〔日〕	16〔月〕
<p>作品持込(3/4AM) 展示作業(3/4、3/5) 審査A(3/6)</p>	<p><b>東京都市大学「建築100人展2019・浅草展」</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>●特別企画Ⅰ「手塚貴晴・由比展」3/7-15</li> <li>●特別企画Ⅱ「多様な相と多彩な眼」3/7-15／第1回 UNIQUE RECOMMENDATION</li></ul> <p>オープニングイベント 2020年3月7日〔土〕15:00-20:00</p> <ol style="list-style-type: none"><li>100人展・展示鑑賞 時間は自由：11:00- 開館中</li> <li>記念講演会・シンポジウム 15:00-17:00 ※14:30受付 <p>手塚貴晴氏（S62卒／手塚建築研究所）、淵上正幸氏（国際建築ジャーナリスト）（予定）</p></li> <li>オープニングパーティ 18:00-20:30 <p>会場：BEARS TABLE 東京都台東区雷門 2-15-1 050-5594-8719</p> <p>地下鉄銀座線 浅草橋2番出口 徒歩3分 <p>都営浅草線 浅草駅A4番出口 徒歩5分 <p>東武伊勢崎線 浅草駅7番出口 徒歩5分</p> <p>※詳細は、メールマガジン、如学会HPにてお知らせします。</p></p></p></li></ol> <p>オープニングパーティ 初日の「オープニングパーティ」には、マスコミ関係、建築家、建築関係者、大学関係者などと理事、顧問など多くの方々をご招待します。OB・OGの方々、出展の皆様も是非ご参加いただき懇親を深めて下さるようお願いします。</p>								<p>11:00-19:00 入場無料 ※3/7〔土〕は11:00-17:30</p> <ul style="list-style-type: none"><li>●特殊照明 本学・小林研究室</li></ul> <p>小林茂雄本学教授指導による会場への導入路を印象的な光の効果でプロジェクション。一見の価値あります。是非、鑑賞に足を運んで下さい。</p>	<p>出展作品 搬出日 (10:00-16:00)</p>
<ul style="list-style-type: none"><li>●模型出展希望者は、その旨を申し出の上、自らで搬入して下さい。</li></ul>									<ul style="list-style-type: none"><li>●模型出展者は、自らで搬出して下さい。 ※頑丈な箱をご用意頂いた方のみ着払いで郵送いたします。</li></ul>	

### ■開催日程／浅草展

【募集要項・出展要領】	【会 場】
2020年 <b>1月31日〔火〕</b> <b>申込締切り</b>	「隅田公園リバーサイドギャラリー」 東京都台東区花川戸 1-1 アクセス：東京メトロ銀座線・東部伊勢崎線・都営地下鉄浅草線「浅草」18番出口より徒歩2分
<b>3月 3日〔水〕</b> <b>宅配・郵送搬入締切(大学)</b>	【オープニングパーティ会場】「BEARS TABLE」 東京都台東区雷門 2-15-1デコル浅草ビル1F アクセス：東京メトロ銀座線 / 浅草駅 徒歩3分(231m)
<b>3月 4日〔木〕</b> <b>作品持込AM</b>	【特別展示「手塚貴晴・由比展」】
3月 6日〔金〕 審査A	【記念講演会・シンポジウム】 2020年3月7日〔土〕15:00-17:00
3月 7日〔土〕 審査B	【オープニングパーティ】 2020年3月7日〔土〕18:00-20:00
<b>3月 7日〔土〕</b> <b>表彰式－オープニングパーティ席上</b>	【展示期間】 2020年3月7日〔土〕-15日〔日〕11:00-19:00 入場無料 ※3/7〔土〕は11:00-17:30
注：審査員の日程の都合により、A、Bの2回に分かれます。	

### ■応募要項

#### A. 募集作品

#### I. 一般展示 － 従来通りの出展作品【模型歓迎】

#### II. 特別企画テーマ「アンビルド-UNBUILD」の出展作品

私ども建築家は、建築依頼主に求められる機能や性能のみならず、使われ方、住まい方など、様々な事柄に対して夢を与える商売でもある。依頼主が思いも寄らない夢を実現でき、感銘を与え、感謝の気持ちをあらわされた時は、建築家冥利につきると言っても良い。しかし、その一方で、建築は社会性、経済性などの必要条件から、単なる芸術的、美学的側面からのみでは成立しえないなど、依頼主からの事情により図らずも中止を余儀なくされ、陽の目を見ない作品も少なからず存在する。それらはときに、習作として次の作品へと繋がる貴重な布石ともなり、大きな結果を生み出している例も少なからず存在する。そこで、今回この「建築100人展2019」では、OB、OG 諸氏の「秘蔵の名作」を是非発表の機会として欲しい。以下のようなものが該当すると思われるが、それ以外も、実現にいたらなかった計画案など、規模の大小、建築の種別を問わず、お蔵入りになっていた作品を是非お披露目して、大きな夢や独創的な案を話題にして、建築100人展を盛り上げて欲しいと思います。

- 応募案の例
  - [1] アイデアだけで、実施にいたらなかったもの（建築作品以外でも、工法の提案、製品の試作など）
  - [2] コンペ当選案でありながら、諸事情により実現しなかったもの。（施政者、事業者の変更など）
  - [3] コンペ応募案で、入選を果たせなくとも多くの示唆やインスピレーションのあるもの。
  - [4] 基本構想や基本設計、または実施設計までいきながら、実現しなかったもの。 などなど。

#### B. 特別企画 － <多様な相と多彩な眼> 第1回 UNIQUE RECOMMENDATION I. 顕彰制度の導入 － 各種の賞を授与します II. 表彰式 － 「浅草展2019」オープニングパーティ席上

今年度より、顕彰制度を導入します。とはいっても、堅苦しいものではなく、優劣を競うものでもなく、「お祭り」としての「建築100人展」らしく、<多様な相と多彩な眼>と銘うち、「バリエーション豊かな審査員」と、「バリエーション豊かな各賞作品群」を目指します。建築専門外の各分野のゲストの方々も交じえ、本学の五鳥育英会による「理事長賞」、大学の「学長賞」をはじめ、構造、設備、工法、材料 etc. 全ての分野の教授陣が興味を示されたものを表彰します。いわば、「ノーベル賞」もあれば「イグ・ノーベル賞」もあります。来年の2020年3月7日「建築100人展・浅草展」オープニングパーティの席上で表彰します。表彰は審査員の直筆サインもある<銘板プレート>とし、副賞は審査員各々の特徴ある記念品とします。ご期待下さい。

# 戸田千春

■file-93 恩師の教えを胸に抱いて

(H26 卒)



- TODA Chiharu**  
 2014 東京都大学建築学科卒業 (勝又研究室)  
 2016 東京都大学大学院 建築学専攻修了 (勝又研究室)  
 2016 戸田建設株式会社 入社 工事課 所属 (研修)  
 2017 戸田建設株式会社 開発計画部 配属



東京音楽大学 中目黒・代官山キャンパス (写真-1)



東京音楽大学 中目黒・代官山キャンパスの音楽ホール (写真-2)



オーケストラと合唱の演奏会 (写真-3)

私の所属する開発計画部では、設計の初期段階から建物の企画提案をはじめ、コンサルティングを通じて事業化を推進する業務を行っています。入社、本配属後の1番のビッグプロジェクトは、東京都大学からも近い「東京音楽大学 中目黒・代官山キャンパス」の仕事でした (写真-1)。本配属されてから2カ月後には、計画段階での緑化のプランの大賞を決めるコンペがあり、一次審査のための提案書作成、そして最終審査におけるプレゼン作成、及びプレゼンテーション発表を、ゼロから全て上司に任せていただきました。分析能力やプレゼンテーションには、大学、研修室で学んだことが今の業務にも大いに役立っており、このコンペでも大賞を受賞することができました。頑張る社員には挑戦させてくれる、そして若手でもどんどん任せてくれる会社です。また、最近の戸田建設は、新しいことに挑戦していく雰囲気があります。東京音楽大学 中目黒・代官山キャンパス 開校 (2019年4月) 後の2019年5月には、開校を記念して、地域を巻き込んだエリアマネジメントイベントを開催し、その企画段階から運営まで携わりました。もちろん、会社として初めての試みです。イベントのフィナーレには、東京音楽大学 中目黒・代官山キャンパスの音楽ホールにて、オーケストラと合唱の演奏会を行

いました。その演奏会にわたし自身も自ら合唱団の一員として参加し、自分が初めて携わった案件で、自らも舞台にあがるという柔軟な取り組みを、会社をあげて応援してくれました。(写真-2,3) 最近では、こういった取り組みが認められ、会社の未来を決める重要なメンバーの一員として選ばれる等、本来の業務はもちろん、その他の業務でも頼っていただけており、社員として一歩ずつ前進していると感じています。業界イメージとして、お堅いと思われるゼネコン。わたし自身も就活の際は、ゼネコンには入らないと思って就職活動していました。しかし、現在所属する部署の仕事内容に惹かれ、就職活動を進め、内々定をいただいた際、他に内々定をいただいていた誰もが知る大手メーカーと最後の最後まで迷いました。しかし、勝又教授の「それは戸田建設でしょ!」との御言葉が決定打となり、戸田建設に入社しました。そして、5月のイベントのフィナーレの演奏会には、劇場の専門家である勝又教授に来ていただき、今までの感謝の気持ちを伝えられた気がしています。これからも様々な業務に関わりながら、一歩一歩前進していきたいと思っています。

(戸田建設)

# 吉井ちよ

■file-94 社会に「よこな」を「よこ」

(H16 卒)



- YOSHII Chiyo**  
 2004 武蔵工業大学工学部建築学科卒業 (宿谷研究室)  
 2007 株式会社丹青社  
 2015 青山学院大学専門職大学院 国際マネジメント研究科 MBA 修了

月日が経つのは早いもので、大学を卒業してから15年が経ちました。私は新卒で住宅設備機器メーカーに入社し、その後、総合内装ディスプレイ会社である(株)丹青社に転職し今年で13年目となります。入社以来、制作職として主に飲食店の新装・改装工事の施工管理に約2年間、営業職として、外食企業を中心にプロジェクトマネジメント(PM)業務に約8年間携わって参りました。現在は、店舗や施設等のメンテナンスを専門とする部門で課長職として、中長期的な事業戦略や業務改善・効率化の策定といった、発足して間もない部門の立ち上げに従事しています。また、子会社である(株)丹青ビジネスの非常勤取締役を兼任し、経営的な観点でのマネジメントを担っています。学生時代を振り返ると、私自身は特に優れた成績を修めていた訳でもなく、特に秀でた能力を発揮していた訳でもなく、学業の傍ら、サークル活動やアルバイトに励むといった、いわば一般的なキャンパスライフを過ごしたと記憶しています。就職活動においては、まさに氷河期真っ只中と思うように就職先が決まらなかった同級生も少なくありませんでした。私は幸いにも志望した企業に決まりましたが、ミスマッチにより数年での退社を経験しています。丹青社に入ってから、自らの経験・知識不足のため、現場の職方と十分に会話もできずに失敗したこともあります。そこで知

識習得のため入社1年目に2級建築士を取得しました。営業職への職種転換を機に、店舗改装のPM業務を担うことになり、設計者や施工会社、関連サプライヤー、関係諸官庁との調整やプロジェクトを引っ張っていく以上、更なる知識が必要だと感じ、一級建築士を取得しました。徐々に顧客の経営者や事業担当者とは話す機会も増え、空間づくりにおいて、素材、形状などのデザイン面やテクニカル面以上に、その投資によってリターンが得られるのかという経営者・事業者の視点がより重要だと気付きました。顧客と同じ目線に立ち、空間づくりを軸に課題解決が提案できるようになりたいと一念発起し、経営を学ぶため青山学院大学専門職大学院に入学し、社会人と学生の二足のわらじ生活を経てMBAを修了しました。現在は、同社メンテナンス部門に所属し、引渡・竣工後に起こる修繕履歴をデータベース化し、分析・活用していくことを検討しています。時代と共にトレンドやテクノロジー等、周囲の環境はめまぐるしく変化をしていきます。また自分自身も年を重ね、役割や立場が変化をしていきます。その変化に抗わず、変化を受け入れ、必要に応じた学びによって進化をしていくことが可能です。今後も継続的に「学び」を大切にしたいと考えています。

(丹青社)

■file-95 三現主義の仕事場にて

# 星 千紘 (H25 卒)

- HOSHI Chihiro**  
 2013 東京都大学工学部建築学科卒業 (新居研究室)  
 2015 東京都大学大学院工学研究科建築学専攻 (住吉・堀場研究室)  
 2015 清水建設株式会社 入社 関東支店埼玉営業所配属  
 2017 東京支店建築第三部



大学院を修了し、清水建設に施工管理職として入社しました。今年で現場での仕事も5年目です。今は丸の内高層ビル内装担当として来年の竣工に向けて仕事を管理しています。会社員の5年生がどのような立場なのかは職種や会社によって様々かもしれませんが、清水建設ではまだまだOJT(On-the-Job Training)の途中の年代と言えるでしょう。現場係員として未経験の工事内容に四苦八苦することもあります。しかし1年目や2年目の頃は現場をみる視野が広がってきたとも感じています。1時間現場を確認して帰った時に収集できる情報量が1、2年目よりも増えてきているからです。

生産現場では良く耳にする言葉に「三現主義」という考えがあります。「現場」「現物」「現実」の3つに重きを置くというものです。施工管理の仕事はまさに「現場」で「現物」をみて「現実」にどういった仕上がりになっているのかを確認してゆることが重要です。今はまだ現場所長や工事長が示してくれたマスター工程から個別の担当工事を中心に工程管理や品質管理をしている立場ですが、担当工事の進捗や細かい納まりを現場で直に管理できるので充実しています。自分が主体で施工計画を工事業者さんと打ち合わせした工事が計画通りに納まってゆくのはやはり嬉しいです。ただし、現場は日々変化してゆくので、すべてが当初の思

惑通りにはいきません。だからこそ前述した通り現場を回って情報を集めなければ工事が正しく進まないのです。現場の変化に対応しつつ、図面や工事の管理基準を確認しながら品質の管理に注力したり、工程表とにらめっこしながら1週間後や1か月後の工程のために明日自分が手配すべき仕事をリストアップしたりと事に励んでいます。Q「品質」C「コスト」D「工程」S「安全」E「環境」と管理項目は多岐に亘りますが、安全第一で私は明日も現場に立ちます。

(清水建設)

# 如学会 2019年度 定期総会・講演会・懇親会報告

2019年6月1日[土] 会場：渋谷エクセルホテル東急

総務局長 小林秀憲 (S57 卒)

## 1. 2019年度定期総会

如学会定期総会は、例年と同様に渋谷エクセルホテル東急にて開催された。米澤総務副局長より開会の辞が述べられ、山岡会長の挨拶に続き、会長の進行により議事が執り行われた。第1号議案が、小林副会長より発議され、「2018年度事業報告」が承認された。今まで実施してきたそれぞれの事業を進展させる形であるが、特筆として「建築100人展 2016 上野浅草展」におけるオープニングイベントの開催があげられる。特別企画として「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の写真展・シンポジウムを実施し、その後に続いて隅田川船上でのオープニングパーティを実施した。第2号議案として露木財務委員長より「2018年度収支決算報告」がなされ、阿部、小辻両監事より適正な活動であることが会計監査報告され、承認された。第3号議案「2019年度事業計画」、第4号議案「2019年度収支予算」についても承認された。

## 2. 講演会 / 如学会トーク

東京急行電鉄株式会社 渋谷開発事業部副事業部長 西澤信二氏による「エンタテイメントシティ SHIBUYA の実現に向けて」と題した講演会が、三好副会長の司会により行われた。講演の内容については、日刊建設工業新聞社の山口氏の記事を参照願いたい。

## 3. 懇親会

懇親会は、川端事業副委員長、辻村会長の司会進行により執り行われた。山岡会長の挨拶より懇親会が開会された。今年は、ご来賓の方々の挨拶を、高橋遠五島育英会理事長、小見康夫東京都市大学建築学科主任教授、原口兼正東京都市大学校友会会長、勝又英明東京都市大学建築学科教授より頂いた。そして堀場弘建築学科教授の発声により一同乾杯を行った。引き続き参加された方々のご紹介を行い、ご来賓の方々、建築学科教室教員よりお言葉を頂いた。つぎに特別講義の講師の方々をご紹介します、委嘱状を授与し一言を頂いた。その後、吉田勝一 元校友会会長に対し、「如学会・特別功労者」表彰を行ない、副賞として記念品を贈呈した。吉田氏の四半世紀を超える如学会、武蔵工業会、校友会に対する長年に亘る功績に対する慰労と感謝の意を表しての表彰である。さらに、在学生に対して蔵田賞、如学会賞受賞者の紹介を行った。如学会より学生3研究会の代表者の方々に奨励金を山岡会長より授与した。また、毎年実施されている赤レンガ卒業設計展への奨励金授与を実施した。最後に大抽選会を昨年に続き実施し、盛況うちに斉藤副会長の辞を行った。



定期総会 会長山岡嘉彌より挨拶



西澤信二氏による渋谷再開発プロジェクトの講演



高橋遠理事長(左)・岩崎堅一名誉教授(中央)・木幡裕充顧問(右)



ご来賓挨拶



五島育英会・高橋遠理事長 小見康夫主任教授挨拶 原口兼正校友会会長挨拶



勝又英明教授挨拶



吉田勝氏に特別功労者表彰 堀場弘教授挨拶 斉藤博副会長挨拶

## 会費・支援費納入のお願い

如学会で催される様々な事業は会員の皆様の回避で賄われております。今年度も多数の会員の皆様から会費、支援費の納入を賜りました。誌面をお借りして厚く御礼申し上げます。

平成20年度から導入された会費4年分10,000円という割引制度が、郵便局への為替振込の簡便さもあって、4年分一括納入の会員の方が増えています。ただし年度毎に振り込む習慣がなくなるので、会費切れの会員データシートの会費欄、会費納入者リストをご確認頂き、会費切れの方は会費納入の程、よろしく申し上げます。また4年前に導入された支援費制度も定着してきて、毎年多数のOBの皆様からご支援頂いております。支援費につきましては、年度毎に会員の皆様の篤志を仰ぐ制度となっております。既に4年分の会費をお納めの皆様も、支援費のご協力についてよろしくお願いいたします。

会費：3,000円(1年分) / 10,000円(4年分・割引)  
支援費：5,000円/1口

納入頂ける方は必ず内訳をご記入の上、振込頂くようお願いいたします。如学会NEWSに同封の専用の振込用紙を用いない場合は下記口座をご利用ください。

郵便局 払込取扱票 No.00160-0-174206 如学会

## 来年度の定期総会・講演会・懇親会のご案内

来年、2020年度の定期総会を開催します。本年同様、「同窓会」として位置づけており、お誘い合わせの上、多数のOB、OGの参集を期待しております。

期 日 2020.06.06 [土]  
会 場 渋谷エクセルホテル東急

詳細は「如学会NEWS」2020年春号に掲載します。

# 如学会 2018年度(平成30年度)収支決算及び2019年度(令和1年度)予算案

財務委員長 露木博視 (S55 卒)

(単位：円)

【一般会計】		平成30年度決算			令和1年度予算	
年度		平成29年4月1日～平成30年3月31日			平成31年4月1日～令和2年3月31日	
収入の部	科目	予算	実績	対予算	予算	備考
	会員会費	1,610,000	1,018,000	-592,000	1,150,000	50人×3千円(1年分)+100人×10千円(4年分)
	支援費	500,000	331,000	-169,000	500,000	50人×10千円
	総会	520,000	551,000	31,000	520,000	70名×7千円、祝金:30千円
	職域理事会	250,000	195,000	-55,000	250,000	懇親会:50人×5千円
	進路ガイダンス		150,000	150,000	150,000	
	100人展	1,480,000	1,544,000	64,000	1,480,000	出展料90点×7千円、協賛費850千円
	見学会	30,000	5,500	-24,500	30,000	3回×20名×500円/人
	校友会支援費	1,010,000	1,114,000	104,000	1,114,000	
	その他	1,000	18	-982	0	
	収入合計	5,401,000	4,908,518	-492,482	5,194,000	
支出の部	科目	予算	実績	対予算	予算	備考
NEWS	制作費 春・秋	650,000	751,560	-101,560	750,000	3,000部×2回
	発送費 春・秋	400,000	441,193	-41,193	450,000	3,400部(2回分) 送料 封筒代含む
	NEWS計	1,050,000	1,192,753	-142,753	1,200,000	
会員管理費	印刷関係	350,000	233,084	116,916	240,000	
	会員管理費計	350,000	233,084	116,916	240,000	
会議費	総会	830,000	820,970	9,030	850,000	会場費730千円(懇親会費用を含む)、印刷費30千円、パネル運搬費70千円
	常任理事会	30,000	29,521	479	30,000	主に資料コピー代
	職域理事会	250,000	210,103	39,897	250,000	懇親会:50人×5千円
	委員会	70,000	37,222	32,778	40,000	会議室
	会議費計	1,180,000	1,097,816	82,184	1,170,000	
主催事業	100人展(大学展+巡回展)	1,200,000	1,740,881	-540,881	1,000,000	展示用品費、運送料、懇親会費他
	特別講座	200,000	194,293	5,707	200,000	交通費20名×5千円、懇親会:75千円、他雑費
	進路ガイダンス	280,000	218,331	61,669	350,000	昨進路ガイダンスが前期・後期と2回に分けて開催、懇親会も2回になるため、懇親会等を増額。
	見学会	18,000	2,000	16,000	16,500	見学会3回(CPD登録料3回×5.5千円/回)
	産学連携支援	50,000	0	50,000	150,000	(1)概舎計画について設備と意匠の産学連携支援 3万円 (2)建築学科:計画・意匠系研究室との産学連携支援 7万円 (3)構法材料系・構造系・環境設備系との産学連携支援 3万円 (4)他学科と連携した産学連携支援 2万円
	若手・中堅OG/OBの発掘事業	20,000	0	20,000	0	
	ワークショップ(青年委員会)	300,000	256,001	43,999	300,000	伊豆大島プロジェクト:交通費18万、宿泊費9万、予備費3万(制作物等にかかる費用)
	如学会NEWSの製図室への掲示	10,000	0	10,000	0	
	主催行事予備費	50,000		50,000	50,000	
	主催事業計	2,128,000	2,411,506	-283,506	2,066,500	
学生関係	助成金	180,000	90,000	90,000	90,000	3研究会(1・2年生学園祭授業@20千円)、赤レンガ卒業設計展30千円
	学位授与式・蔵田賞	110,000	136,409	-26,409	140,000	ポスター2個(蔵田賞・如学会賞)作成費(11千円)、如学会資料作成
	その他	0	20,000	-20,000	50,000	予備費
	学生関係計	290,000	246,409	43,591	280,000	
管理費	慶弔費	50,000	80,000	-30,000	80,000	総合資格、日建学院、他
	通信費	20,000	10,404	9,596	15,000	サーバ・ドメイン代
	事務用品	50,000	7,427	42,573	10,000	文房具
	支払手数料	30,000	21,266	8,734	25,000	会費振込受取人払分
	荷造運賃	10,000	0	10,000	0	
	雑費	21,000	2,030	18,970	10,000	交通費
	予備費	100,000	0	100,000	97,500	
	管理費計	281,000	121,127	159,873	237,500	
	支出合計	5,279,000	5,302,695	-23,695	5,194,000	
【収支】		予算	実績	対予算	予算	
	収入合計	5,401,000	4,908,518	-492,482	5,194,000	
	支出合計	5,279,000	5,302,695	-23,695	5,194,000	
	収入合計-支出合計	122,000	-394,177	516,177	0	
前年度繰越額		7,796,239				
一般会計収支		-394,177				
次年度繰越額		7,402,062				

如学会の今年度後半の主な行事は下記の通りです。多くの会員の皆様のご参加をお待ちしております。

如学会恒例の最大イベントである「100人展」は、大学展では中止となりましたが、浅草展は開催します。

## 東京都市大学「建築100人展2019」/浅草展

### 編集後記

2020.03.07 [土]-03.15 [日] P19参照

**浅草展** 11:00-19:00 入場無料

会場：「隅田公園リバーサイドギャラリー」

特別企画Ⅰ：「手塚貴晴・由比展」

特別企画Ⅱ：「多様な相と多彩な眼」

### 第1回 UNIQUE RECOMMENDATION

● 今回より、多彩な審査員団による数々のユニークな賞が授与されます

● 記念講演会・シンポジウム/手塚貴晴氏・淵上正幸氏(予定)

● オープニングパーティ・表彰式

日時：2020年3月7日 [土] 18:00-20:30

会場：「BEARS TABLE」

※詳細は、メールマガジン、如学会HPにてお知らせします。



浅草展 2018



オープニングパーティ 2018：東京湾クルーズ



浅草展 2019 オープニングパーティ会場：「BEARS TABLE」(予定)

＜多様な相と多彩な眼＞  
第1回 UNIQUE RECOMMENDATION  
今回より多彩な審査員団による数々のユニークな賞が授与されます

## 東京都市大学 第14回「建築100人展2019」 浅草展

### 第1回 UNIQUE RECOMMENDATION

【募集要項・出展要領】

出展された作品を審査団が事前に評価・選定します。

2020年 1月 31日 [火] 申込締切り  
3月 3日 [水] 宅配・郵送搬入締切(大学)  
3月 4日 [木] 作品持込 AM  
3月 6日 [金] 審査A  
3月 7日 [土] 審査B  
3月 7日 [土] 表彰式+オープニングパーティ席上  
注：審査員の日程の都合により、A、Bの2回に分かれます。

### A. 募集作品

- I. 一般展示 - 従来通りの出展作品[模型歓迎]
- II. 特別企画テーマ「アンビルド・UNBUILD」の出展作品

### B. 特別企画 - <多様な相と多彩な眼>

- 第1回 UNIQUE RECOMMENDATION
- I. 顕彰制度の導入 - 各種の賞を授与します
- II. 表彰式 - 「浅草展2019」オープニングパーティ席上

台風により大学が浸水しました。理由については、現時点では大学から統一した見解が示されていません。建築学科棟は、膝下まで水が来ました。大学職員の方から下水に浸かった椅子を先生方と消毒したと聞きました。学生に復旧作業を手伝わせなかったのは、下水による浸水で怪我や健康面で危険な状況に晒したくないとの意向があったようです。10月17日、世田谷キャンパスに行った時は、図書館側は立ち入り禁止で、4号館側も大学の技術員を呼び出さないといけない状況でした。浸水した建築学科棟の1階は綺麗な状態に戻っていました。M2階では主任教授をはじめ教職員が対応を協議されていました。授業を再開するために、使えなくなった教室の調整は他のキャンパスにも及び、教職員の方は大変苦労されたと思います。被書類が提示されていませんが、在校生に今何が重要か重要だと思いません。授業を行うのに支障のあるものの提供が急がれます。それには卒業生の支援が必要です。如学会も義援金を募ります。ご協力の程宜しくお願い致します。

丹羽 譲治

### 各事業の申し込み

問い合わせ先

総務局長  
小林 秀憲

E-mail  
jogakkai.info@jogakkai.jp

### 発行人

山岡 嘉彌

### 編集長

丹羽 譲治

### 情報委員長

露木 博視

### 編集顧問

松成 和夫

### 編集委員

酒井 孝博

勝又 英明

山口 裕照

鈴木 浩

### エディトリアルデザイン

山岡 嘉彌

### 制作

鈴木 浩

### 制作・印刷

株式会社 はやと企画

### 発行

東京都市大学建築学科如学会  
東京都世田谷区玉堤 1-28-1  
〒158-8557

### 発行日

2019年12月15日

## 会費・支援費納入のお願い

是非とも旧友、先輩、後輩にご連絡いただき、会費納入の促進にご協力いただけるようお願いいたします。そして、積極的に如学会活動にご参加下さい。仕事にキャリアにも多くのメリットがあります。会費・支援費のご納入いただいた方々は、如学会NEWSに添付の納入者リストにご芳名を掲載させていただいております。

会費：3,000円(1年分) / 10,000円(4年分・割引料金)

支援費：5,000円/一口

納入頂ける方は必ず「内訳」をご記入の上、振込頂くようお願い致します。如学会NEWSに同封の専用の振込用紙を用いない場合は下記口座をご利用ください。

郵便局 払込取扱票 No. 00160-0-174206 如学会

郵便振込以外の方法を紹介(詳しくは如学会HP)

## ホームページのご案内



■ URL: jogakkai.jp

■ リニューアルポイント

1. ホーム画面・メニューを一新しました。
2. 「お知らせ」、「如学会メールマガジン」を過去分も含め、ホームページから見る事ができます。
3. 「会員サービス」を新設し、登録住所及び会費・支援費の納入状況の確認を自分でできます。



## 定期総会・講演会・懇親会

2020.06.06 [土] 15:30-20:00

15:30 ● 定期総会 ● 渋谷エクセルホテル東急

16:30 休憩

16:45 ● 講演会 (講演者：未定)

17:45 休憩

18:00 ● 懇親会

※詳細はメールマガジンで追ってお知らせします。HPもご覧下さい。